

Vol.7

Passo a Passo



Senshu University





専修大学は、1880年（明治13）に設立された私立専門学校（学校名「専修学校」）を基礎とし、時代の進展とともに発展してきました。創立当初の本学は、他校に先駆け経済科と法律科を併設し、経済学と法学の複合教育によって日本社会の近代化を担う人材を育成し、120年にわたり社会・経済の運営を担う実践的な人材を育んできました。

専修大学の21世紀ビジョン

社会知性の開発を目指す

21世紀のさまざまな社会課題の解決に貢献し、合わせて自己実現を図っていく人材に求められるもの、それは、「社会知性（**Socio-Intelligence**）」だと専修大学は考えます。
そしてこれが21世紀の「専修大学が創り育てる知」です。

社会知性

Socio-Intelligence

「専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観をもち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」である。

表題はイタリア語でパッソ・ア・パッソと読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

注：後半のデータは確定済みの平成16年度のものを掲載しています。

Passo a Passo

目次

はじめに「教員免許制度が大きく変わろうとしている」……………	5
——専修大学教職課程協議会委員長 経済学部 教授 矢吹芳洋	
全国私立大学教職課程協議会報告 ……………	6
「教員免許制度改革と教員採用の動向」	
～全国私立大学教職課程協議会での議論から	
——商学部 教授 中野 育男	
特別寄稿 Induction Institute 2005 コンテンツとプロセスからの学び……	9
——商学部 助教授 小峰 直史	
教職課程	
英語教育学と英語教育界 ……………	14
——文学部 助教授 片桐 一彦	
卒業生から ……………	16
教員採用試験体験記 ……………	21
教育実習を終えて ……………	25
介護等の体験を終えて ……………	31
司書・司書教諭課程	
ビデオに見る図書館～図書館発見の手がかりに～ ……………	34
——文学部 兼任講師 千葉 治	
卒業生から ……………	36
図書館実習を終えて ……………	37
留学体験記 ……………	38
学芸員課程	
インドシナの現代史をめぐるアジアエキスポージャツアー ……………	40
——経済学部 兼任講師 御園生 純	
卒業生から ……………	42
博物館実習を終えて ……………	43
データ編	
平成16年度資格課程履修者数 ……………	46
平成16年度教員免許状取得状況一覧 ……………	47
平成16年度実習先一覧（教育実習）……………	48
平成16年度実習先一覧（図書館実習）……………	51
平成16年度実習先一覧（博物館館務実習）……………	51
主な就職先一覧（教職）……………	52
主な就職先一覧（司書・司書教諭）……………	54
主な就職先一覧（学芸員）……………	54
平成16年度資格課程年間行事表 ……………	55
平成16年度教職公開講座開催結果 ……………	56
平成16年度教職特別講座開催結果 ……………	57
平成16年度第13回専修大学英語科教育研究会開催結果 ……………	57
平成16年度司書課程就職（進路）相談会開催結果 ……………	57
平成16年度資格課程教員紹介 ……………	58

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて!!

教員を目指す
あなたへの



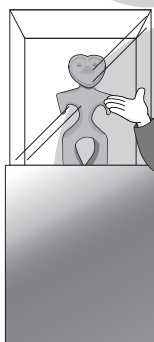
教職課程

本が好き
図書館で
働きたいなら…



司書課程
司書教諭課程

博物館・美術館で
働きたいなら…



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイダンス

1～4年次
4月上旬



教職課程履修登録

1～4年次
4月上旬

教職公開講座
(希望者)

1～4年次
10月頃

教職特別講座
(希望者)

1～4年次
3月頃

司書教諭課程履修登録

1～4年次
4月上旬

司書課程履修登録

1～4年次
4月上旬

司書課程学生相談会
(希望者)

1～4年次
11月～1月頃

学芸員課程履修登録

1～4年次
4月上旬



介護等の体験開始

3・4年次
(中学校教諭免許状取得希望者)

6月下旬
～
2月初旬

教育実習

4年次

5月～6月

教員免許状の交付

卒業時
(事前に申請した者)

3月

14
ページ

学校図書館 司書教諭講習 修了証書の交付

卒業時
(事前に申請した者)

34
ページ

図書館実習 (希望者)

4年次

8月～12月

司書課程単位習得 証明書の申請 および交付

卒業後(希望者)

館務実習

3・4年次

7月～9月

学芸員資格取得 証明書

卒業時
(事前に申請した者)

40
ページ

3月

教員免許制度が大きく変わろうとしている

専修大学教職課程協議会委員長 経済学部 教授 矢吹 芳洋

この2年の間、年度初めに1年生を対象としたガイダンスに出席して資格取得の心構えを話し、真剣な取組を求めている。というのも、このところ資格取得をめざす者が年々増加しているが、資格取得だけを目的とした履修者が増え、中には単位取得に迫られ、大学生活も楽しめず、専門をおろそかにし、さらには卒業も危うくするといった者までおり、そのような不幸な事態を招いてほしくないという願いからである。

しかし、教職課程では、こうした資格取得だけを目的とする履修に歯止めがかかりそうである。せっかく苦労して教職単位を修得しても教員免許をもらえない、また免許を取得しても失効してしまう、そんな改革がいま進められている。

改革の柱は二つ。一つは、これまで教職課程で必要な単位を修得し、各学部を修了（卒業）すればほぼ自動的に教員免許状が交付されたが、これからはさらにその人物が教師としてふさわしいか判断した上で免許状が授与される（適格性審査制）というもの。もう一つは、免許取得後、原則10年ごとに一定の講習を修了しなければ免許が失効する（更新制）というもの。前者は、国が判断基準を定め、各大学の「教職課程委員会」（仮称）が審査し、不適格と認定した場合には免許を授与しないことができる。その基準には「使命感や責任感、愛情」「社会性や対人

関係能力」「子どもの理解」「教科の専門的知識」「教科の指導力」の5項目が挙げられている。後者は、10年ごとの講習が義務付けられるだけでなく、さらに教員としての適格性があると判定されなければ免許は失効する。講習は数十時間程度で、大学、都道府県、政令指定都市の教育委員会が実施する。これらの改革はまだ案の段階だが、早ければ2006年にも教員免許法が改正される予定である。

こんな案が出てきた背景には、教科の専門知識や技能が足りない、学級もまとめられないいわゆる「指導力不足教員」問題がある。指導力不足と認定された教員は、2003年度481人、2004年度566人と年々増加している。公立学校教員数は全国で約93万人で、2000人に1人の計算になる。それだけではない。昨年度の新規採用1万9500人のうち191人が1年間の条件付採用期間後に正式採用されなかった。不採用率約1%で過去最高を記録した。

教員の問題行動への対応は、懲戒・分限処分や配置転換などの現行制度でも可能である。しかし、適格性審査制と更新制の導入は、これらの教員を生まず、また排除しやすくするのがねらいである。目的はこれだけだろうか。教員になる気もないのに免許だけを取ろうとする者を事前に排除したいというねらいもありそうだ。

ところで、現在、教職課程を

履修している者はどうか。この点は明確でない。ただ、不利益不遡及の原則から、現職教員は対象外となる予定なので、同様に対象外となりそうだ。したがって、今回は従来どおり免許は交付されるし、更新制も適用されない可能性が高い。しかし、安心するのはまだ早い。現職教員に、同様の講習を義務付けるかどうかは今後議論としている。これらの者に更新制が適用されるのも遠い先のことではない。

免許を取っても教員になるつもりはない、という声をよく耳にする。教員免許は、いざという時の保険であればよいとの考えである。しかし、更新制が導入されれば、保険の意味は薄れる。10年後に数十時間の講習を受けろと言われ、そんな時間的余裕や意欲がある者が何人いるだろうか。教員免許は、もう保険にならない。免許の取得には、これまで以上に明確な目的意識が求められることを自覚すべきである。

「教員免許制度改革と教員採用の動向」 ～全国私立大学教職課程協議会での議論から

商学部 教授 中野 育男

全国私立大学教職課程協議会（全私教協）の第25回大会が2005年5月21日、22日の両日にわたって名古屋の南山大学を会場として開催された。今大会の公開シンポジウムでは「教員養成政策の新段階」という統一テーマの下で議論が展開された。具体的には、教員免許の総合化、弾力化や教員専門職大学院などの動きと、これにともなう教員採用の変化について多面的な検討が行われた。本稿では、そこでの議論の概要を紹介するとともに、今後の本学資格課程のあり方に関するヒントのようなものを探ってみることにしたい。なお、分科会においては「教育実習におけるセクシャル・ハラスメント」の問題も議論されているので、これについても若干ふれておくことにする。

1. 教員免許制度改革と教員養成

中央教育審議会の2002年4月の答申では、今後の教員免許制度のあり方について、総合化と弾力化の方向を打ち出している。この場合、弾力化は現行の教員免許制度の下での拡大ということであり、総合化は中長期的な課題として位置づけられている。この総合化と弾力化は、各学校段階における基準性を明確にするとともに、その連続性を確保することをねらいとして、キャリア科の新設などの教科の再編、小中一貫校の開設などの動きと軌を一にしている。実態においても、地方自治体では小中学校間での教員人事の交流が推進されている。今後、小中学校の総合免許状も構想されてくるが、それぞれの学校種における学び方、教え方の違いなどもあり、直ちにこれが実現することは考えにくい。また、今日の我が国における教員

養成の実態からは、開放型の教員養成の崩壊と終焉に結びつくことが懸念される。

教職専門科目の重点的履修や実務家教員の採用のための教員養成の専門職大学院の設置や、教職課程の認定の厳格化とあわせて、実践的な講義の実施や講義内容・方法の改善を求める中で、教員免許の更新制の導入も具体化しつつある。教員専門職大学院の論議の背景には、現在の教員養成大学学部における教員養成系修士課程大学院に対する不信感が存在している。それは、実践性を欠いたテーマの修士論文が多いということである。このため、国立の教員養成大学・学部では、教員専門職大学院の設置拠点校として指定を求めるとともに、それに外れた場合の再編を回避するための動きが急である。

2. 教員養成システムの課題

今日、児童生徒の学習意欲の低下、規範意識・自立心の低下、社会性の不足、いじめや不登校の深刻な状況など、学校教育が抱える課題は一層複雑化し多様化している。このような学校現場の課題に対応し得る高い専門性と、豊かな人間性・社会性を備えた力のある教員の養成が求められている。

教員養成のあり方としては、学部段階では、教科指導及び生徒指導に関する基礎的かつ基本的な資質・能力を確実に育成することが求められている。また、大学院段階では現職教員の再教育も含めて、特定分野に関する高度の資質能力や、教職としての高度の専門性を備えた多様な教員の養成が期待されている。

しかしながら、大学における教員養成の現状については、「理論や講義が中心で、演習、実習等が不

十分」「教職経験者による指導が少ない」などの実践面での指導力の強化などが、課題として指摘されている。特に、大学院段階では、研究者養成と高度専門職業人養成との区別が曖昧なまま、とかく個別学問の専門性が過度に重視され、教職としての専門性の育成がおろそかになる傾向がみられる。

高度な専門性を持った教員の養成や、現職教員の再教育の充実を図っていくためには、学部段階での教員養成の着実な改善・充実をはかるとともに、大学院での教員養成と再教育のあり方の見直しや、制度面での検討も含めた、教員養成と再教育システムの充実と強化が求められている。

3. 教員養成のための専門職大学院制度

我が国における高等教育の普及とともに、科学技術の進展、急速な技術革新、社会経済の複雑化、グローバル化などを受けて、社会の様々な職種、領域において大学院レベルの高度な専門的職業能力を備えた人材が求められるようになった。

このため、平成15年度から、従来の大学院制度とは異なり、目的・教育内容・方法・体制などを高度専門職業人の養成に特化した「専門職大学院」制度が創設された。法曹、会計をはじめとして様々な分野で、高度専門職業人の養成に特化した専門職大学院の設置が急速に進んでいる。同様に、教員養成の分野においても、「教職」という職務内容の高度化、複雑化、多様化が著しい専門的職種としての性格を踏まえて、より高度な教職専門性を備えた教員の育成が期待されている。

我が国の教員養成は、戦後、「開

放制」の原則のもとに、一般大学学部と教員養成大学学部とが、それぞれ個性を発揮して、行われてきた。引き続き、この「開放制」の原則の下で、学部段階では教職の基礎・基本となる資質・能力をしっかりと育成するとともに、大学院では教員養成、再教育の充実をはかるための専門職大学院制度の活用が期待されている。

4. 教員専門職大学院の目的と機能

開放制の原則の下での教員養成システムを前提として、新たに専門職大学院を活用する場合、教員養成が抱える今日的課題への対応の必要性や、各大学の大学院段階での取り組みの実績を考慮すると、当面、教員専門職大学院では次のような目的と機能が特に期待される。

現場で一定の教職経験を有する小・中・高校等の現職教員を対象として、将来、地域におけるリーダー的な教員や指導主事、学校のマネジメントにとって不可欠な指導理論と実践力・応用力を備えた学校管理職の養成、さらに、学部段階で教員としての基礎・基本となる資質・能力を身につけた学生のなかから、より実践的な指導力を備えた「即戦力」としての新人教員の養成などの目的と機能が期待されている。

5. 教職課程の認定審査の課題

中教審教員養成部会の課程認定委員会は、2005年3月の文書の中で、教職課程の質の確保をはかる必要性を強調し、審査基準の具体化を図るとともに、課程認定を受けた後の教職課程についてもその質を維持するための方策の整備について検討を行うとしている。

各大学においては、大学としての教員養成に対する理念・構想の明確化が求められ、カリキュラムと履修方法、教員組織を中心とした現行の審査から、学科の設置趣旨と免許状の相当関係、授業構成、履修指導、改善のための組織的取り組み、などを含む体系的な審査を導入することを検討している。

また、教職科目の設定趣旨の明確化も求めており、免許法の区分に従って配置されている各教職科目について、それに相応しい授業科目名及び授業内容等について一定の指針を示すことにする。例えば、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）、教育相談の理論及び方法（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）、などがあげられている。

教職課程担当教員の研究業績の審査基準の明確化も求めている。現行では、実務経験を有し、実践的な教育力を有する者についての判断基準が定められていないが、教員として求められる資質を明確化するとともに、積極的な活用が期待されている実務家教員については実務経験を評価し、審査する基準が別に必要であるとしている。その際、他の教員とのコラボレーションの可能性についても視野に入れておく必要がある。

6. 教員免許制度改革と採用・研修

我が国の人口構造の影響を受けて、教職を志望する者にとっては長く冬の時代が続いていた。しかし、近年、団塊の世代の大量に採用された教員が、定年退職の時期に差し掛かり始めたことから、小学校教員から再び大量採用時代が始まろうとしている。教員を採用する側の教育委員会では、採用試

験の倍率は低下しても、優れた資質と能力を持った教員を厳選して採用するために、努力を重ねている。

一部の都府県においては、教員採用の選考試験事務が市町村段階に委ねられるようになってきており、特区制度を活用したユニークな教員も学校現場に登場している。また、地域特性を踏まえた提案方式の採用試験も行われるようになってきている。こうしたなかで、教員には、高い信頼性と即戦力として資質が求められている。とくに求められている指導力としては、秩序ある学級集団を形成し維持する力量があげられている。このような力量は、教科の指導力の土台となるものであり、重要である。

現行では教員免許状は、採用時に一回だけ提示され、あとはずっと保管されたままになっているが、教員免許の更新制の導入がなされると、免許状の切替えの時期において、教師としての技量の精錬度が点検されることになる。豊かな経験と勘そして度量を備えた教師（KKD教員）となるには日頃の自己研鑽と、指導力を増強するための研修の制度が必要となる。近年、学校現場では自発的な校内研修が行われるようになった。校長、教頭といった管理職やベテラン教員が中心となって、しかも、任意参加のかたちで教育のスキルを教授する「校内教師塾」が開かれている。

教員の採用の現場では、近年、3種の神器としてCCLが重視されている。最初のCはコンピュータのことであり、パソコンをツールとして指導できる能力が必要とされる。次のCは、カウンセリングのことである。多様な児童生徒の就学を支援し、教室をまとめて

行くことのできる指導力が求められている。最後のしは、ライブラリーということで、教員免許とは別に、司書教諭や学芸員の資格を持っている者は、今後、採用が有利になるということである。児童生徒を対象とした読書指導、読書教育の重要性が現場では注目されている。

7. 教育実習におけるセクシャル・ハラスメント

この研究大会の分科会では、2004年度に実施された教育実習の際のセクシャル・ハラスメントに関する調査についての中間報告が行われた。それによると教育実習生の9%が何らかの形で教育実習中にセクシャル・ハラスメントに遭遇した（被害・見聞）ことが明らかとなった。その内訳は女性が10%、男性が8%であった。この結果は3年前に実施された調査

とほぼ同様である。

教育実習におけるセクシャル・ハラスメントの典型例は、加害者が主として教員であり、性的なからかいの対象となったり、冗談を言われ、教育実習生が精神的苦痛を感じるというものである。これらは酒席で行われることが多い。そして、このような行為に対する対処法としては、軽く受け流すことが精一杯である。また、教員以外の加害者として最も高い比率（25%）を占めているのは生徒であった。これらの行為によって教育実習への意欲や能率の低下を訴える実習生の割合も多い。

教育実習の事前指導の中にセクシャル・ハラスメントに関する内容が含まれているか否かについての調査では、31%の実習生が入っていたと回答している。しかし、事前指導の内容は多岐にわたり、セクシャル・ハラスメントに関す

る事項について十分な指導が行えないという現実もある。セクシャル・ハラスメントに関する事前指導では、この被害を回避するための指導が重要であり、事例の検討などを通じて認識を高めておくことが必要である。酒席での被害では、とくに2次会以降において被害が多いことから、酒席の出席は1次会までとし、実習中の帰宅時間は午後10時までとするといった指導をしている例もあった。

調査では約7割の大学が、教育実習生に対するセクハラ防止の対策に関する取組みを行っている。実習生がセクシャル・ハラスメントに遭遇した場合、教職課程として学生の相談に応じたり、実習校や教育委員会と交渉するなどの対応が多く、学内のセクシャル・ハラスメント相談窓口に委ねたり、弁護士などの外部機関に相談するなどの例もあった。

1 ワークショップの魅力！

ワークショップを活用した教師（養成）教育。これが私の大学教師としてのこだわりである。理由を3点挙げる。ワークショップは、教室現場に心に小波が立つ経験を創出できるからである。ワークショップは、「離見の見」（世阿弥）の視点を養うことができるからである。ワークショップは、コラボレーションの良き実習となるからである。

この小論は、電子辞書を片手に（gray hairになりつつ）参加した、カリフォルニア大学サンタクルーズ校教育学部附属New Teacher Center主催の「Induction Institute April 2005」の学びの一部に焦点をあてたい¹。取り上げるのは以下の2点である。

- ① 教師教育ワークショップの内容的記述（コンテンツ）
- ② 関係の側面からの学び（プロセス）

2 アメリカ教師教育の課題とセンターの位置づけ

志の高いプロ教師の養成とその資質能力の向上。ここアメリカでも議論が盛んである。加えて、2001年以降、教育の「Accountability」への要求の高まり（具体的には全州スタンダード・テストのスコアが求められること）。新人

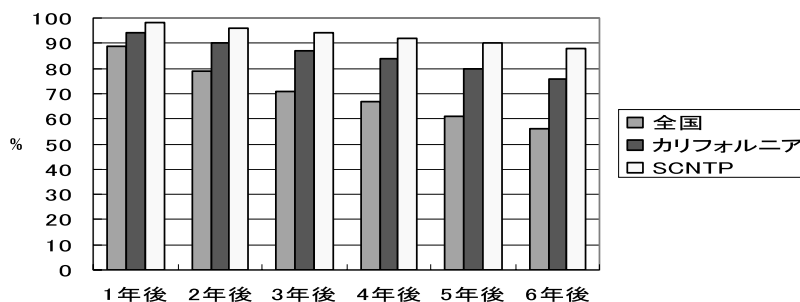


図1 教職維持率の比較

教師の高い離職率（5年間で約半数の教師が教壇を去る現実。図1参照）。今後10年間に220万人の教員が不足するという予測²。これらのファクターがこの議論をホットにする。

孤立しがちな新人教師のサポートという使命から、New Teacher Centerと教育委員会・学校、大学とが共同で、フルタイムのメンター（良き相談相手）制度をコアとする初任者研修プロジェクト（Santa Cruz New Teacher Project。以下SCNTPと記す）の実践を積み重ねている。図1に示すように、離職率低下という「消極的」な側面に限定しても、効果が見られる³。

表1に、このプロジェクトの骨子を整理しておこう。最大の特徴は、専任メンター制度を採用していることである（所属学校から離れ、授業はもたない）。メンター1人あたり14人の新人教師を担当することになる。そこではOne-on-

oneかつ現場に根ざした指導・支援が展開される。メンターはメンティーとの人間関係を重視するのはもちろん、新人教師たちが担任する児童・生徒たちの理解も要求される⁴。指導原理として、①目標に向かって実践研究をともにすすめる同僚性と②反省的实践（例えば、これを促進する仕掛けとして、California Standards for the Teaching Professionに適合させたSCNTPの「形成的評価体系」がある⁵）の2つが重視されている。

3 プログラムの構成 - コンテンツからの学び -

Induction Instituteワークショップは、①SCNTPの体験的理解と②各地域に応じたより効果的な新人教師教育プログラムの開発及び修正の糸口を探すという二つの目的を持って構成されている。全米から集まった参加者は33名。4人以上の職場単位で参加しているグループと私のように1人で参加し

表1 SCNTPの中核部分

	新人（メンティー）	ベテラン（メンター）	New Teacher Center
期間等	2年間	2～3年出向（所属学校から離れる）	メンターの募集と選抜。両者のマッチング
メンタリング （指導・支援 プロセス）	・徹底した現場志向（授業観察、ティームティーチング、指導） ・週1回の2時間の定例面談 ・ポートフォリオの作成（両者の反省的实践に効果あり）		スーパーバイズ 効果の調査研究
ガイダンス	マンスリーセミナー（ネットワーク形成の意味もあり）	基礎ワークショップ（2日間） 週1回のスタッフミーティング	企画・運営。スーパーバイズ。調査研究

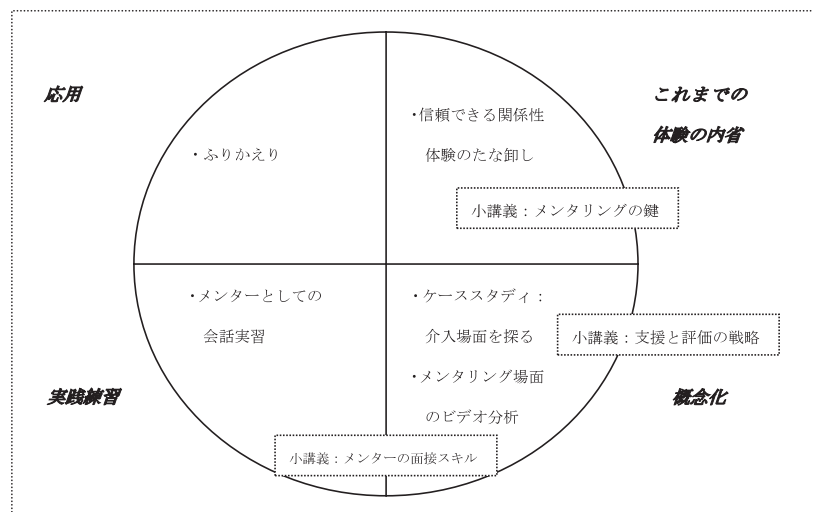


図2 3日目のワークの構成

ている者と参加形態はばらばらである。職場単位をキーに5から6人のホームチームが6つ作られていた。チーム編成の特性からであろうか、ファシリテーターは、②に該当するワークを「放課後」の自主活動にまわすことが多かった。

3-1 多彩な参加型学習－理解・対話・さらなる理解のサイクル

紙面の都合から、基礎的なメンタートレーニングの中核部分を占める3日目のコンテンツの記述とそこから得た学びに焦点を絞りたい。

この日のテーマは、メンター－メンティーのリレーション作りの意義と実際である。図2は、この日のメインワークをDavid A. Kolb氏の「体験学習プロセス」理論を

参考に、筆者が分類したものである⁶⁾。個々の体験を内省するところからはじまり、現実を分析し、メンター・コミュニケーションのための実習へとつなげる流れはワークショップのシークエンスから見ても、基本に忠実であり安定感がある。視覚教材を用いた分析実習あり、ロールプレイありとアクティビティの形態は多彩。参加者のもつ知識やスキルを活用し、読む・語る・見る・聴く・行動する力が発揮できるようになっている。図が示すように、体験的ワークと小講義の位置取りも、「理屈」がほしいアダルトランナーには効果的である⁷⁾。

3-2 ハード・ワーク！－Sudden LiteratureからJigsaw instruction へ－

一つのアクティビティを紹介したい。これは5日目の最終セッションで行われ、6日目の午前最初のアクティビティへと繋がったワークである。流れを表2に示す。

ねらいは、参加メンバーの視点の深さと幅を広げることにある。関心を共有する者と語り合うことで共感の輪を広げ、思考を深める。違う視点に興味を持つメンバーと(知的)関心をシェアしあうことで、それぞれが関心の翼をひろげる、というオープンエンドの発想を取り入れた高度な構成的なアクティビティである。

小中高校の各教科・特別活動・道徳の領域でも応用可能なもので、教育関係に進む方は、それぞれの状況に応じて改良しつつ実践してほしい。

4 プロセスからの学び

最終日の最後から2番目のワークでは、「それぞれのチャレンジ・学び・心の動き」を、内省することが求められた。図3は私の「Journey Map」である。

4-1 ファースト・クエスチョン：関心はエネルギー

パーティ会場でのDr. Ellen Moir氏のウエルカム・スピーチをほとんど聞き取れないことも憂鬱な気分にした。その夜、ほとんど眠れず、なんとも言えない緊張感の中、ハイウエー1を走る。「パート

表2 ワークの流れ

- ① 個人作業：プリント2枚に6項目のトピックスが掲載（a.希望と教育 b.社会変革・社会的公正と教師 c.教師の質の低下と学業達成 d.レイシズムの克服 e.新人教師の学びの場 f.経験から学ぶということ）。これらの中から最も興味のあるものと、興味がわからないものを一つ選び、その理由を挙げる。
- ② 同じ項目にマークした人を探し「シェアリング」。違う項目にマークした人を探し「シェアリング」。
- ③ 「シェアリング」後、再度、自分の最も興味のある項目を見直し、番号を選択。ファシリテーターより、選択番号に応じた、その夜の宿題（マークしたものに合致した内容の10数枚～50ページ程度の論文）が割り当てられる。
- ④ 「同じ論文」を読んだメンバー同士でグルーピングがされ「シェアリング」。
- ⑤ 「違う論文」を読んだメンバーでグルーピング。自分の論文の要旨と④でのセッションの議論を報告し合う。

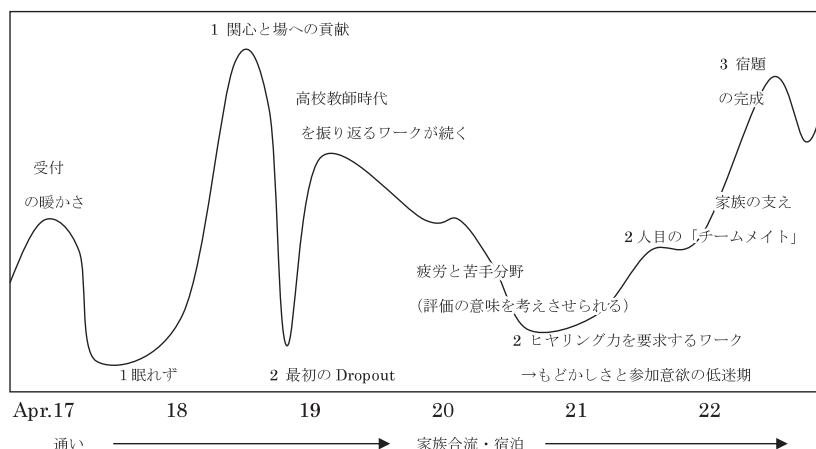


図3 私のJourney Map

ナー・インタビュー」から始まり（ほんの少しブレイク・ザ・アイス）、ファシリテーターから初日のゴールが示される（これは明確で良かった）。一人の参加者が即座に挙手（さすがアメリカ）。「日本の教育が私たちの目標だ。日本の現状について知りたい」と発言（エッ、俺か！）。立ち上がると全参加者の目が（ヒエー）。「日本の教師教育の現状と教員による自主的カリキュラム開発」について語る。事前準備していた資料も効果的（準備は大切（と「自己満足」））。彼女の私への質問は、その中味以上に、「あなたに注目しているよ。一緒に学ぼうよ」のメッセージと受け止められた（さすがメンターのスーパーバイザーが集まるワークショップだ）。こうして私の学びの「ドア」は開かれていった。

4-2 Dropout：閉じられた「ドア」から突きつけられた課題

1 対多の議論となるとヒヤリング力に自信が持てない。そこでコミュニケーション・ツールとして大きな画用紙（A3程度）と多色ペン（12色！）を準備していた。ところが、それを使おうとなかなか言い出せない。「新人教師の発達プロセスに応じた戦略」についてグループ・ワークをしていた時に始

めて画用紙を使いプレゼン。「日本はこう。アメリカも同じ？」「違う」と一言。議論はどんどん進んで行く。ついていけない。私の発言と同時に、存在すらも軽く扱われた気がする。議論に参加できない、アウトプットに貢献できない学習者の気分は、とても苦い味であった。この日は画用紙と同様に私の心まで閉じてしまった。

この時の経験が4日目のアクティビティ「Table Jigsaw Activity」にも悪影響を及ぼしてしまった。このワークは、これまで主に共同学習をおこなってきたホームチームから別れ、新メンバー間でグループ討議。その結果を再びホームチームに戻り報告、ディスカッションするという（一層ヒヤリング力を要求される）ワークである。「聞き取りが悪いからキーワードを画用紙に書いて発言して」。またしても言えない。自信のなさであろうか。討議の進行という大きな問題に提案できず、逃げ出したい気分の1時間30分であった（それでも「ドロップアウト」パンチを浴びせてくれたホームチームは出来の悪い私を暖かく迎えてくれ、申し訳ない気持ちで一杯になる）。

ファシリテーターの介入のタイミングはどうあるべきだろうか？

いまでも考え続けている難問がある。

振り返ると、2日目の後半は明らかに、私たちのグループのミーティングは機能的ではなかった。このワークショップのファシリテーターは私たちのグループへの直接的介入はしなかった。共通体験効果要因が働いたのか、別の要因が幸いしたのか判断は出来ないが、時の経過とともにコミュニケーションは改善されていった。介入が早すぎるとファシリテーターへの依存が強まり問題を内部から解決する力が育たない。遅すぎると修正が難しくなる。グループワークの成果が貧しくなる。メンバー内に不安全感が高まることすらある。私はこの「ドロップアウト」経験から、大きな課題意識を得ることができた。

4-3 センチメンタル at Aptos

4日目のセッションからホームチームで新しい「チームメイト」ができた。Kimはランチや昼後のグループサイズの大きなセッションでも「一緒に」と何かと気に掛けてくれる。これまでなんとなく会話が進まないBrad（Kimの上司）は、最後の「パートナー・インタビュー」で「Naoやろう」と私を指名してきた（その日の終わりに、BradとKimはフライトの都合で明日の早朝に出なければいけないことを知る）。「宿題」が課せられると、チームメイトは、「Nao！大丈夫か？寝れるか？（彼らは2日目にほとんど眠れず参加していることを知っている）」と笑いつつ気にかけてくれる。

ホテルのロビーで家族をワークショップ参加者に紹介できたのも得がたい体験であった。

Kimとサヨナラの握手をした時感じた別れ難さ。「ワシントンの家

に遊びにおいで」・「宿題、手伝おうか」と常に声を掛け続けてくれたKateの笑顔。ファシリテーターのJanetとWendyの暖かい眼差しと励まし。宿題を終え、早朝の少し霞んだカリフォルニアの海を見つめると、このワークで関わった人々の顔が次々に浮かんでくる。その味わいは、参加前に想像していた開放感とはすこし違い、「もう彼ら・彼女らとは二度と会うことはないのかもしれない」、「教員養成に奮闘している仲間とこの地で出会えた」といったセンチメンタルな気分を含むものであった。



The George Washington University のProject Director Kate Tindle氏と最終日

¹ 平成16年度相馬学術奨励基金海外研究員として、カリフォルニア大学サンタクルーズ校にて、学ぶ機会を得た。研究テーマは、「ワークショップに関する理論的・実践的研究」。

² National Teacher Recruitment Clearinghouse（全米教員採用情報センター）の予測。Webアドレスは
<http://www.recruitingteacher.org/channels/clearinghouse/>

³ Anthony Villar, Is mentoring Worth the Money? A Benefit - Cost Analysis and Five-year Rate of Return of s Comprehensive Mentoring Program for Beginning Teacher, New teacher Center.の資料から引用した。

新人教師の資質向上の他にも、学校文化の変革、メンターが学校に復帰した際のリーダー効果があげられる。この点については、Ellen Moir, Janet Gless, and Wendy Baron, 'A Support Program with Heart : The Santa Cruz Project', in Marger

Scherer (Eds.), 1999, "A Better Beginning Supporting and Mentoring New Teachers", Association for Supervision and Curriculum Development (pp106-115).参照のこと。

⁴ Ellen Moir, Janet Gless, and Wendy Baron, 同上。

⁵ New Teacher Center, 2004, "Continuum of Teacher Development", New Teacher Center.

⁶ Kolb氏の体験学習理論は、David A.Kolb, 1984, "Experiential Learning", NJ: Prentice Hall, Chapter2とChapter3が詳しい。

⁷ 成人対象のワークショップの構成には、参加者の現実生活の課題と強くリンクした動機付けが求められる。例えば、Thomas Justice and David w. Jamieson, 1999, "The facilitator's fieldbook: step by step procedures, checklists and guidelines, samples and templates, AMACOM, pp9-

12.

⁸ 海外研究員としてアメリカに行くに当たって、対策として（エ！何の対策？）幾つかのエッセイを読んだ。なかでも 藤原正彦、1981、『若き数学者のアメリカ』新潮文庫、岸本周平、2000、『「中年」英語組-プリンストン大学にわか教授-』集英社新書は生活・研究面双方に役立った。

教 職 課 程



英語教育学と英語教育界

文学部 助教授 片桐 一彦

1. はじめまして

私は、本年度（平成17度）4月1日に本学文学部英語科英米文学科に着任致しました。

専門は、英語教育学と言語テスト理論研究です。本資格課程に於きましては、英語科教育法や英語科教育実習といった授業を担当しています（もしくはこれから担当することになります）。

2. 英語教育学とは

英語教育学は、教育学の中でも教科教育に特化した学問です。中等教育における英語科教育では、外国語である「英語」を教えるわけですが、「学習者が英語を学ぶ・習得する」という過程を科学的に分析しつつ、「どのように教授したら、学習者が外国語を効率的に学習し習得するのか」を研究します。一口に言うとうるさそうですが、実際には、第2言語習得理論、英語教師論、英語学習文法論、英語評価論、英語リスニング論、英語リーディング論、英語スピーキング論、英語ライティング論、英語コーパス論、英語CALL（e-learning）論等様々な分野があり、その他、心理学や言語学や統計学等の関連諸科学が付随してきます。

このように英語教育学には更に枝分かれしたより専門的な学問分野が多数あり、それらによって英語教育学という大枠が構成されていますが、ここにおけるポイントは、必ず英語学習者との接点があることです。直接的に学習者と繋がらなくても間接的にでもいいので、また、今すぐには学習者と繋がらなくても将来的に学習者に繋がるということでもいいので、とにかく学習者との接点があること、つまり学習者が見えることが一番重要な点です。



たとえばコーパスの研究でも、言語学に於けるコーパスの研究は、言語学的な発見や考察をするためのデータとして使用しますが、英語教育学に於けるコーパスの研究はどのように学習者の英語学習に貢献できるかということが課題になります。「学習者コーパス」といって、学習者の書いた（もしくは発話した）英語だけを集めてコーパス化し、学習者の産出（output）を研究したり学習者の言語習得過程を研究するデータとして使用したりします。つまり、いずれにしろ直接的もしくは間接的（将来的）に学習者に研究成果が還元されることを見据えていることが必要です。

教育研究においては、学習者（幼児、園児、児童、生徒、学生、もしくは成人学習者）が存在して、ある事柄（経験内容、教育内容、教授法、教材等）とその学習者の間に接点があり、その接点を持つ時、どのような変化が学習者には起こるのか、その交互作用について研究することが最も本質的な課題だと私は思っております。

3. 応用言語学との違い

「英語教育学」「外国語教育学」

とほぼ似た意味で、「応用言語学（Applied Linguistics）」という術語が使われることが頻繁にあります。あまりこだわりはありませんが、私自身は自分の専門分野を「応用言語学」とはほとんど言わず、「英語教育学」と言っています。言語学を応用している成果はそれほど多くはなく、また、心理学を応用しているケースも多々あります。それになんと言っても、「児童・生徒・学生・成人学習者、つまり人間との接点があることが第一の条件である『教育』の研究」であると自分では思っているからです。

4. 客観的データに基づいた教育の研究を

教育の世界では、未だに「単に言い放たれた」主義・主張が多いように思われます。いわく「電子辞書はためにならない。英語の勉強には、なんといっても紙の辞書だ。」「学校で、ヘラヘラ英語でしゃべりの練習なんかしてもなんにもならない。伝統的文法訳読方式が、一番英語力をつけてくれる。また、同時に知性も磨いてくれる。」「小学校から英語を勉強させれば、子供なんかすぐにペラペラ英語が話せるようになるさあー。」等々。

しかしながらよりよい教育環境デザインを構築するためには、実証的に客観的に科学的に調査し、その調査結果（データ）に基づいて討論を行うことが必要不可欠です。たとえば、小学校から英語を始めると一口に言っても、小学生のいつから、週何時間、どんな授業を（どのような内容をどのような形式で）受けるのか、ということによって、全く違った結果が得られます。こういった条件をきちんと整理したうえで、客観的に実証的にデータを蓄積していく必要があります。

5. 英語教育学の学問的発達

昨年度まで、学会の紀要査読審査委員を務めておりました。以下の感想は、学会のニュースレター用に私が執筆し掲載されたものですが、紀要査読審査を経験しての一番の感想は、ここ5年から10年の間に論文のレベルがものすごくアップしたということが挙げられます。

研究論文の本数（量）が増えかつ質が上がった理由は、（特に現役の中学校・高校の先生の中で）大学院修士課程に進学し研究の方法を身につけた先生が著しく増えてきていることや、計量心理学的実証研究を始めとする学問的発達等いろいろな理由は考えられると思います。しかし、その中でも科学技術（なかんずくコンピューター）の発達による部分が大きいと私は感じております。

インターネットのおかげで情報が簡単に検索できるようになり、電子メールのおかげで遠くの研究者とも超低コストで情報を交換できるようになりました。また、多くの人にとっては、論文を「書く」「執筆する（筆を執る）」という骨

の折れる作業は、「（キーボードを）打つ」「編集する」という作業へと変わりました。

エクセル等の表計算ソフトにより集計が楽になり、簡単な統計分析も可能となりました。またSPSSを始めとする統計ソフトのおかげで、一昔前だったら困難であった統計分析（2元配置の分散分析や多変量解析等）がいつも簡単にできるようになりました。

今注目を浴びている、コーパスも、e-learningも、コンピューター適応型テスト（TOEFLのコンピューターテストやCASEC等）も、英作文のコンピューター自動採点システムも、項目応答理論（TOEICのように絶対得点で英語力を算出できるシステム）も、構造方程式モデルもすべて、コンピューターの発達をなくして語ることはできません。

ここで気になることは、科学技術の発達の恩恵を受けて、たとえば実証研究（特に計量心理学的研究）や上記のような新しいものを使った実践研究等飛躍的に発展している分野がある一方で、科学技術の発達の恩恵をあまり受けない分野では学問的にさほど発展していない分野があるのではないかとことです。たとえば、理論研究などが挙げられると思います。

科学技術の発達の恩恵にだけ頼るのではなく、目の前にいる学生なり生徒なり児童なりの英語の習得に繋がる研究なのかどうか、学習者の学習に貢献できる研究なのかどうかを常に確

認することが大切だと思います。自戒を込めて……。

6. 激動の英語教育界

現在、英語教育界はさまざまな課題の挑戦を受けています。文部科学省の『『英語が使える日本人』育成のための構想』、それに伴い5年間に渡る英語教員悉皆研修、Super English Language High School（通称SELHi）、その他、小学校英語科目導入問題、絶対評価、習熟度別クラス、大学入試センターにおけるリスニングテスト導入、e-learning、基礎学力低下等々、まさに激動の世界です。

7. むすび

このような激動の英語教育界であるからこそ、大学の研究者には、英語教育学における更なる研究が期待されると同時に、研究成果の教育現場への還元が期待されております。また同時に大学には、将来の優秀な英語科教員の養成と輩出が期待されております。

専修大学着任にあたって、ますます専修大学の名声を高められるよう、研究に、研究成果の還元、そして優秀な英語科教員の養成・輩出に、これから励んで参りたいと思います。皆さんこれからどうぞよろしくお願い申し上げます。



卒業生から（小学校）

北海道今金町立八束小学校教諭 野呂 圭司（平成7年 法学部法律学科卒業）

専修大学を卒業して10年、教職について9年目を迎えました。過去の8年間は、中学校において教鞭をとっておりました。私の場合は、中学校技術科としての採用であったので中規模校以下であれば、教科時数が不足し、免許外教科である英語や理科を任されることもあり。この8年間は憧れの北海道の大自然に育まれながら瞬く間に時がながれました。北海道といえば皆さんは広大な大地、知床に代表されるような自然を思い浮かべられることでしょうか。しかし、中学校現場においては、のんびりはあてはまらず、類に漏れず、日々、生徒指導に追われて過ぎました。今春、人事異動にともない、中学校から小学校へと転勤になりました。（民間企業ではありえませんが、教員の世界では、免許がある限りある程度希望がかないます。社会教育主事の資格をとれば、行政に出てスキルアップをはかることも可能です。また、大学に戻って学んだり、日本人学校で働く道も開かれています。）今回の転勤先は全校生徒12名（内愚息1含む）教員7名の僻地校でした。まさか、自分がテレビに出てくるような小さな学校で勤務することになるとは思いもよらなかったし、ましてや小1になる息子と同じ学校で働くことになるとは考えも及びませんでした。どちらかが、体調を崩して休まない限り1年365日、1日24時間、息子と顔をあわせているわけです。1日3食、息子と食事を摂る父親、これ以上のマイホームパパはなかなかいないと自負しています。この場では最高ということにしておきましょう。（悩みをあげればきりがありませんから・・・）

さて、私が受け持つのは3学年2名・4学年2名計4名の複式学級です。内、3名が兄弟なので実質2家庭ということになります。

教育の理想ともいうべき、恵まれたアットホームな環境のもと教育活動に励んでいるという訳です。4月までは30人学級を受け持っていたのでそのギャップに戸惑っていますが、北海道ではよくあることです。前述した「複式」という授業形態は、同一教場において異学年の授業を同時進行で行うものなのですが、「ずらし」や「わたり」といった、特殊な教授方法で1単位時間に3年生と4年生の内容を同時に教えなくてはなりません。正直これにはまっています。皆さんには想像がつく方がどれだけいらっしゃるでしょうか。頭で考える以上に実際やってみるとうまくいかず、思考錯誤の連続です。そんなわけで、今春より初任者に戻ったつもりで1から積み重ねているところです。

また、中学校と小学校では同じ人間を扱う仕事でも接し方が大分違います。中学校で勤めていた昨年までは、小学校教員に対して、基本的な生活習慣やしつけについてもっとしっかり指導してくれたら中学校で助かるのにと、中学生にもなって簡単な漢字や九九もいえないような子どもが沢山、入学してくるのを見て、「小学校の先生しっかりしてよ、頼むから」と、口癖になっていました。小学校の教員の指導に不信感を抱いていたのです。ところが、小学校に来て一番感じていることは、意外に指導が厳しいなということです。中学生にだって言わないようなことをかなり厳しく小学校の先生は指導するのです。どうやら問題は別のところにあったようです。小中の連携の重要性がことあるごとに叫ばれている割には、互いのテリトリーを犯さず、表面的な授業交流や指導交流に留まり、一歩突っ込んだ実のある情報交換が行えていないのはなぜだろう。と前々から不思議に感じてはいたのですが、



やっとその謎が解けたところでした。小学校の教員の立場からすると、せっかく手塩にかけて育て上げた子どもの芽をどうして摘んでしまうのか。中学教師が子どもを生かしきれていない。といった不満が聞こえてくる。掲げる教育理念は同じはずなのに分りあえない。小中の連携、学社融合、開かれた学校と言われますが、まだまだ閉鎖的な社会であると感じています。これから教職を志される皆さんには是非、未来の財産を大きく育ていくために本質的な部分で、教師に求められるものは何か迷ったとき子どものために最善の行動は何かを立ち止まって考えられる人間になって欲しいと思っています。恐らく教職に対する憧れや夢や理想の部分が大きく膨らんでいることと思われそうですが、現場では決して楽しいことばかりでは有りません。教師の仕事は結果がすぐに現われませんから一概に言えませんが、1年間、どれだけやってきたか、卒業式で泣けるか、泣けないか。

教師の仕事は一言では語れません。これから、教職を志す皆様の御健闘をお祈りしております。



複式3・4年 野呂学級 4名

卒業生から（国語）

茨城県立岩井西高等学校教諭 相田 英聡（平成7年 文学部国文学科卒業）

8年間の講師経験を経て、一昨年、やっと採用試験に合格しました。面接で「教員を志望した理由は？」と聞かれ、一瞬戸惑いました。『教員を志した理由？そんなのもう忘れたよ！』と、正直、思いました。「自分が高校生だった頃、学校生活が楽しくて面白くて。今度は自分が生徒たちにそんな充実した場所を提供してあげられれば。自分もそんな場所で仕事ができれば。」それが最初に抱いていた志望理由でした。しかし、一般の企業の方からはお叱りを受けてしまいましたが、自分にとっての教員生活は、そんな志望理由も埋没してしまうほどの「多忙な毎日」と「厳しい現実」です。

初めて教壇に立つまでは、自分の母校をイメージしていました。「新しい先生には生徒たちは興味を示すだろう。」と勝手に思っていました。しかし、実際に教室に入ったところ、勉強？先生？そんなものには一切興味無し。半分以上が仕方無く学校に来ている生徒たち。こちらの呼びかけにも全く無反応。自分の認識が甘かった。初めての授業はとてつもなく長く、「逃げ出したい」という気持ちに支配されながらの50分でした。

以来10年、センター試験対策の授業？大学一般入試向けの課外？ やったことはありません。古典の助動詞の活用？ 一度もやったことはありません。1時間の授業で教科書5文字しか進まなかったこと、何度かあります。もう自分の母校のイメージなんかありません。もちろん、自分たちの意志で学校生活を楽しみ、自分たちの力で卒業後の進路実

現を目指せる高校もあります。でも、そんな学校ばかりではありません。受験の重圧とは全く別のレベルでの「厳しい社会」の中で生活している生徒はたくさんいます。大人から愛されずに育ってきてしまった生徒はたくさんいます。そんな生徒たちと10年間、過ごしてきました。

そんな中で、自分が最初に抱いていた志望理由は、もう薄れてしまいました。生徒に「なぜ先生になったのか？」と聞かれ、冗談で「給料が安定しているから。」とか「他に食べる方法を知らないから。」と答えることがありますが、自分から見て、本気でそういう理由でこの職に就かれている方が多いような気がします。「学校の先生ってプライド高い人多いなあ。」と思ってしまうことも少なくないです。自分のプライドと戦うことってとてもきついことでしょうが、柔軟性や適応性が著しく少ない人は大変だと思います。

大先輩の先生に言われました。「教員は『あの生徒は私の言うことをきかない』とすぐ言う人が多い。

『自分はその生徒に言うことをきかせられない』と自分の指導力を反省する教員は少ない。」と。ドキッとさせられました。授業や教科指導はもちろん大切です。それは基本です。それとは別の次元で教員として大切なことは、生徒たちと身近に接する大人として、「良いことは良い、悪いことは悪い。」と指導することではないかと、思うようになっていきます。教員が戦うのは生徒ではなく、結局は自分自身なのかもしれません。それと同時に最近では、「戦争」の無い社会を築く大人になってもらうために、少しでも「戦争」の悲惨さを生徒たちに伝えていくことが、日本で教壇に立つ者の使命ではないか、とも強く感じています。

反対するつもりはありませんが、「安定した収入」、「企業の就職が無かった」、「何となく先生も悪くない」等の理由でこの職に就かれる方は、きっと後で苦労なされると思います。仕事ですから、もちろん現場は大変です。自分はそんな大変さを一緒に笑い飛ばせる人と仕事がしたいです。



中央が相田先生

卒業生から（英語）

東京都私立専修大学附属高等学校教諭 布施 良太（平成4年 文学部英米文学科卒業）

私が専修大学附属高等学校に奉職して14年目になります。本校は大学付属ということで、ほとんどの生徒が専修大学に進学します。外部受験をする生徒は全体の1割もいません。そのため、生徒は良くも悪くも非常におおらかで、のんびりしています。クラブ活動が盛んで、関東大会に出場するクラブもあります。

現在、私は2年生（41名）の担任をして、英語Ⅱと土曜日に行っている講座で2年生向けの基礎講座を担当しています。校務分掌では教科主任、国際教育主任（いわゆる国際交流です）、同窓会主任、学習指導部の4つを兼任しています。部活では女子バレーボール部の顧問を務めています。

さて、教師を目指す人の多くが情熱とやる気に満ち、理想の教育を実践することを夢見ていることでしょう。それはたいへん素晴らしいことです。ですが、自らを支える強固な柱がなければその気持ちは空回りしてしまいます。そこで、実際の教育現場で必要とされる教師—特に英語教師—について書いてみようと思います。

どの教科でもそうですが、教科内容に対する深い知識が必要です。英語科でいえば、まずバランスの取れた英語運用能力です。文科省が策定した「英語が使える日本人」の育成のための行動計画の中で、「概ね全ての英語教員が、英語を使用する活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を図る授業を行うことのできる英語力（英検準一級、TOEFL550点、TOEIC730点程度以上）及び教授力を備える」ことを目標として掲げています。が、現在私学で求められているのはそれ以上の力です。

2つ目に教授力です。これは教



え方を工夫する力と実際の授業でのパフォーマンス力に分けられます。

学生時代に読んだ本の中に、「教えられたように教えるな」という言葉があります。「常に、自分の授業を省みて、改善点を探し、それを次の授業で生かしていく継続力を持つこと」と言い換えられると思います。ですが、驚くほど生徒時代に習ったやり方、もしくはそれと酷似したやり方で授業をしている教師が多いというのが、いろいろな現場の話を見聞きした私の印象です。同じような授業法を取ること自体が必ずしも悪いわけではありません。要は、複数の教え方の選択肢を常に持っていて、状況に応じ、そのとき最善と思われる方法で授業を展開することができればよいわけです。その結果として、生徒時代とほぼ同じ授業スタイルになるなら問題はありません。

次にパフォーマンス力ですが、特に英語の音について強調しておきます。個人的にはネイティブのように発音できることが必要だとは思っていませんが、少なくとも

誰からも誤解されない、明瞭な発音はできなくてははいけません。それは、日本語の干渉からできる限り脱した音声であり、いわば国際英語の音声です。その獲得のためには腹式呼吸と息をコントロールする術を身に着けることが大切です。

日本語を話すときも同様です。

明瞭で、聞きやすい声で話すことは教師の第一条件といってよいものです。自分の声を鍛え、生徒の心に響く声を自分のものにできれば、教員生活上の非常に貴重な財産になります。

私の考える教師像について縷々話してきましたが、教師になってから現在まで一貫して、自分は英語教師だと思っています。担任業務や校務分掌はもちろん大事ですが、それが名実ともに中心となってしまうのであれば、英語科の教員として採用された意味がありません。現実には教科外の仕事が圧倒的に多いからこそ、英語科であることを常に意識しています。

教師を目指している学生の皆さんも、今のうちに各々の教科の専門知識についてしっかりと学んでおいて下さい。近いうちに現場で会える日を楽しみにしています。



卒業生から（商業）

神奈川県私立相洋高等学校教諭 松井 一郎（昭和58年 商学部商業学科卒業）

私は昭和58年に商学部を卒業し、その年の4月から小田原市にある私学相洋高校に社会科の非常勤講師として採用され教員としての人生をスタートし、気がついたら23年が過ぎていました。23年という年月は長いようにも感じますが、いろいろな事柄（感動、予期せぬ出来事）などがあり、あっという間に過ぎてしまいました。その間には教育実習生も何度が指導し色々と感じたこともあります。そこでここでは教職の道を目指している皆さんに自分としての反省点と、現場での状況を簡単ではありますがお話し、少しでもお役に立てれば幸いです。

1. 私の反省点

現在私は商業科の教師、教科主任、社会福祉部の顧問として教員生活を送っています。採用時に社会科で現在は商業科であることに少し不思議に思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私が採用された当時社会科の教員の年齢層が若く、なかなか専任になれないのではないかと考え、3年目に非常勤講師として働きながら1年間聴講生としてもう一度専修大学に通わせていただき、商業科の免許を取得しました。ここでの1年が私の人生の中での大きな変革点であったと考えています。授業料を自分で払い、何が何でも免許を取らなければならないという気持ちがあったため、授業は一番前の定位置で聞き、わからないことに対しては積極的に教授に質問をしました。（皆さんにとっては当たり前かも知れませんが）またノートも板書を写すのではなく自分でまとめる。その結果当然のように良い成績となり、大学在学中の自分の学習への取り組む姿勢に対して甘かったと非常に反省しました。（実はその当時仲のいい先輩の先生方から、あなたは大学時

代必死に勉強しましたかと言われていました。）それ以来休みの日などに専門学校などに通い、専門教科の知識をより深めようと努力してきました。それ以後生徒指導の中心は授業であると考えようになりました。

2. 勤務校の状況と生徒指導

勤務校である上記高校は生徒数が2000人を超える県内でも有数のマンモス校で普通科60クラス商業科3クラスがあります。普通科（コースが細分化されています）の生徒の大多数が進学を希望し、商業科の生徒でもほとんどが進学を希望している状況です。クラブ活動も盛んで文化部、運動部ともにかなりの実績を残しています。私が担当する商業科は全体の中では学力的には低位置にあります。入学当初は自主的に学習しようと考えている生徒は少なく、学校に遊びに来ているような状態です。以前はそのような生徒を生活指導主導で良い方向に変えていこうと努力していましたが、なかなかうまくいきませんでした。そこで簿記検定を中心に他の先生と協力して、徹底的な学習指導を行うようにしました。検定が近づくと授業変更をしてもらい授業数を増やし、放課後も強制的に補習を行う。最初生徒は受動的であるけれど、自分の解らないことが理解できたり、これだけ勉強したのだから何とかしなければという意識がでてきたりすると、自主的に努力するようになり生徒の雰囲気が変わってきます。生徒は試験が終わると結果をしきりに心配します。この時生徒になぜ結果をこれだけ心配するのかを教えます。「今までにしたことがない努力をしたからだ

よ、努力をしなかったら結果なんてどうでもいいものだ。」つまり努力する重要性をここで教えるのです。このような積み重ねによって生徒が一步一步成長をしていきます。

3. 実習生を指導して

何人かの実習生を指導して共通に感じたことは、専門教科の学習不足であることがあげられます。前もって授業の進度を連絡し範囲を伝えますが、その範囲しか勉強してこない人が多いのが現状です。全体の流れを知らなければまともな授業はできません。生徒から質問を受け、困ってしまい生徒からの信頼を無くし授業がうまく展開できなくなってしまうパターンです。教材研究をしっかりと行って下さい。実習生にテクニックは重要ではないと思っています。重要なのは、生徒に対する愛情（たとえば生徒の名前を全員覚える）と教科に対する自信であると考えています。

4. 最後に

教師という職業はすばらしいものだと思っています。他の職業と違ってこうすれば、こうなるということはありません。日々色々なことが起こり、悩むときもあります。しかし、卒業後また生徒が自分のところに帰ってきてくれる大きな喜びもあります。教員を目指す学生の皆さん頑張ってください。



前列右から2番目が松井先生

卒業生から（情報）

埼玉県私立栄東中学・高等学校教諭 野口 理恵（平成17年 経営学部経営学科卒業）

専修大学経営学部を平成17年3月に卒業し、同年4月から埼玉にある私学の栄東中学・高等学校に情報科の専任として勤務しています。大学時代は教育実習以外に都立駒場高校と専修大学附属高校に教科研修生として、それぞれ1年間と半年間、毎週コマずつではありますが情報の授業に参加させていただく機会をいただき、その経験があったからこそ、今の自分があるのだと思っています。その研修では、先生方に本当によくしていただいて、先生方の研究授業のお手伝いをさせていただいたり、実習の際の補助に入ったり、実際生徒と触れ合うことで勉強！勉強！！という感じではなく、楽しく教員を目指すための勉強ができたと思います。私は教員を目指したのが遅かったので、公立の教員採用試験は受けませんでした。ただ私は中高ともに私学を卒業しており、公立よりは私学の方があっていいのではないかと考えたこともありましたが、教員になるためのチャンスは何でも食いついていこうという精神で私学協会に講師登録をしました。

今、勤めている学校には、11月初めに埼玉の私学協会を通して採用試験のお知らせが封書で届き、12月に採用試験を受けました。初めて受ける学校の採用試験ということもあって、合格するつもりはなく度胸試しのつもりで受験しました。あまり何も考えずに行ったので、模擬授業もうまくできませんでしたし、試験もボロボロでした。ただ結果は「採用候補者内定」というもので、補欠合格といったところでしょうか。それが届いたのが12月後半で、正式に採用が決まったのは非常勤の採用試験をほとんど受け始めていた2月中旬で



した。

最初は非常勤でと考えていたこともあって専任でという話をいただいた時には驚きましたし、戸惑いました。ただ、ゼミの先生の勧めと採用する方もきっと新卒で新任だということをわかって採用を決めているという推測で何事も勉強だという思いで内定を受諾しました。

今、私は中高一貫部所属で、中高一貫教育を受けている高校2～3年生の生徒、200人くらいの生徒の授業を持っています。授業数は週8時間で非常勤の先生よりも少ないような時間数ですが、かぎられた時間のなかでも生徒には楽しみながら学んでもらえるような努力をしています。進学校ということもあり「他の5教科が忙しいから情報の授業くらいインターネットで遊ばせてよ」という気持ちの生徒が多いです。でも、だからといって遊ばせてばかりではいけないし、でも、インターネット利用を規制することもしたくないので、できるだけ自ら学習することができるよう内容を考えて授

業を組み立てています。

教員の仕事は授業だけではありません。正直のところ、大学時代は授業のことばかり考えていました。専任である今はそうも言っていられず、他の仕事に追われる日々です。私は学年でなく入試広報に所属しています。学年の仕事などにあまり関われませんが、私学であるからこそ力が入る部署でありますし、かなり責任ある仕事をさせてもらえます。忙しい部署であるからこそ毎日が充実していますし、本当に上司の方々や周りの先輩の先生や事務の方がいい方ばかりで、恵まれた環境にいると感じています。まだ一学期間しか勤務していませんが、学生時代には見えてこなかった教員の仕事もだいぶ見えてくるようになってきました。未だにふと考えるとなんで教員になれたんだろう？と考えてしまうくらい、激動の半年間でした。まだまだ教員生活は始まったばかりです！これからも毎日が勉強だと思って頑張りたいと思っています。

教員採用試験体験記(社会)「まだ受かっていませんが」

武藤 智彦(平成16年 文学研究科歴史学専攻修了)

1. はじめに

私は現在教壇に立っていない。前年の東京都教員採用選考(中高社会・地歴)で「補欠」になった。都の場合、例年「補欠」の多くが採用されていたので自身も採用されるかと思ったが、3月31日に都に問い合わせたところ『「名簿搭載者(合格者)」も全員は赴任先が決まっていないので『補欠』の採用はない』と言われた。やはり現実には厳しい。合格していない私の「試験体験」が役立つとは思えないが、反面教師としてでも活用していただければ幸いである。

2. 採用試験について

採用試験は大抵二次試験まであり、東京の場合一次で「教職・一般教養(マーク)」「専門教養(マ)」「小論文」、二次で「集団活動」と「模擬授業付き個人面接」がある。他に北海道では一次が「教職・一般教養(マ)」「専門教養(筆記)」で二次が「適性検査」「小論文」と「集団討論」「個人面接」で宮城県は一次で「教職教養(マ)」「専門教養(筆)」「集団討論」、二次で三回の「面接」と「適性検査」「作文」がある。各県で異なるので受験する県の傾向は確認を。

3. 解かずに「見る」

私は大多数の意見と異なり、問題集を解いたり、一冊の本と心中などしない。毎年色々な本を買い電車の中でただ「見る(読む)」だけである。大事な点は複数の本に載っており比較もできる。「一般教養」は時事通信社『一般教養スコープ』等を見る程度。特に理科・数学は東京では大して出ないと思い無視。「教職教養」は時事『教職教養スコープ』や一ツ橋書店『ポケットランナー教職教養』を見

た。法改正等の最新情報は協同出版『教職課程』や時事『教員養成セミナー』を見た。これらは大学内でも無料で見られるかも知れないので専任教員や資格課程窓口に相談を。一ツ橋『これだけは～』シリーズも見たが、他に酒井書店『教育法規の要点』や学研『新教員採用試験??日間200?』も興味深い。後はネットも自宅や情報科学センター等で活用したい。

4. 専門教養も解かない

専門(世界史)はいずれ必要になると思い力を入れた。学部在籍時、大学受験予備校の単科授業に予備校生に紛れ正規に参加し、院在籍時は「院試対策」と称し後輩の院(歴史)受験の勉強の手伝いをした。人に教えるのが一番自分も勉強になると感じた。山川出版社『世界史用語集』は数版八冊を買って見た。大学受験参考書も多々買って見た。日本史・地理も数冊は見た。都の場合学習指導要領も見ておく必要有。

5. 小論文は指定通り書けるように

時間内に指定字数を書ける力が必要。「論題」が何であれいくつかのパターンをあらかじめ考えておき、論題とすりあわせた。誤字無く、教師の立場で、今の教育を否定しすぎず、読める字で書き、「研究と修養に努める」旨を記したい。

6. 集団討論・集団活動

同グループの受験者を「敵」と思わず「将来の同僚」と考え、相手の意見を尊重し、建設的な意見にしたい。最近は「地域との連携」と連呼する人が多いが、具体案が提示できたら面白い。時々自分より年長者や経験者がいるが、採用

されていない点では同じと思い焦らぬこと。

7. 提出資料も用意周到に

提出資料はすべてコピーをとること。提出資料も採点されていると思うこと。提出用紙はコピーをして下書きを書き、本番用紙にも鉛筆でマス目を作り、均等な字の下書きをし、ペン書き後下書き等を消す。丸で囲む際も東急ハンズ等で売っている製図用テンプレートを使い書く。それより東京では二次に提出する面接票に「奉仕活動」の大きな欄をはじめ「パソコン活用能力」「特技・資格・賞」「卒論テーマ」「志望理由」「高校・大学のクラブ」の記入欄があるので不安な方は対策を。

8. 他の東京二次試験対策

東京に関しては前号佐々木先生の体験記が詳しい。ネット上でも読めるので一読を。指導案はB4用紙で提出だが、今回A3プリンタを購入し、上質の紙に印刷して提出した。面接票は原本と「両面コピー」数部が必須だが、「両面コピー」の方法は検討を。模擬授業は「導入・展開・まとめ」の中から面接官が指定した場所を行うが、展開の途中部分を指定されたり、授業自体がない場合も。

9. おわりに

私に使えるコネなどない。あるとすれば皆さんと同じもの、本学の教職員である。受かるために本学の教職員と連絡を密にし、活用して良いと思う。一時迷惑がられても、いつか教壇に立つことによって恩返しができるはずである。私も皆さんと一緒に合格できたらと思う。お互い頑張りましょう。

教員採用試験体験記(国語)

東京都立大森高等学校教諭 桑原 正樹(平成12年 文学研究科国文学専攻修了)

1. 教師を目指すみなさんへ

今年度から東京都大田区にある都立大森高校に初任者として就きました。わたしはこれまでいろいろな学校で講師をしながら教師を目指してきました。

わたしは東京都に生まれ育ちました。みなさんと同じ大学生のころから教師という職業につきたいと思っていました。とくに自分の生まれた地、「東京都の教師」になりたいと思っていました。採用試験を受け続けながら大学等を卒業後、「部活動アドバイザー」として剣道を高校生に指導したり、中学校・高校・養護学校で講師をしました。時には自分の将来について嫌気がさすこともありました。現在、「東京都の教師」となれたことは、奇蹟かもしれないと思うことがあります。それはこれまで出会ってきた人たちのお陰だと感謝しています。

わたしのこれまでの経験から、みなさんが自分の夢として生涯をかける職業として、「教師」を考えてほしいと思います。

2. 東京都の教員になるために

まずは自分が本当に教師になりたいかということを見極めることが大切だと思います。何で教師になりたいのか、どんな教師になりたいのか、二次試験の面接でも質問されました。「子どもが好きだから」と単に考えるだけではだめです。みなさん各自自身が教師を

多面的に捉えることが大切だと思います。その上で自分の将来の目標として掲げることができれば、自ずから道は開けると思います。目標に向かって生きる、努力する姿勢がすべてだと思います。教師を目指すなら、すでに自分は教師なんだという心構えでいてください。

自分が教師なら広くいろいろなことに興味をもつこと。具体的には新聞を読み社会の変化に常に敏感になることが大切です。東京都教育委員会HPは週に一度は確認することです。東京都が今どんな課題に直面しているのか。また、政策など細かく注意すること。自分の希望する校種(受験科目)によっても異なるので広く情報を集めてください。東京都は毎年3月の末に採用試験の説明会を行っています。ぜひ申し込んでください。

現在、いろいろな教育課題がある中、自分が教師としてどう考えるのか。どう解決していくのか、と考え常に問題意識をもってください。論文試験では、評論家のような文を書かず、みなさん自身が教師として、どう実践するのか具体的に考えてください。論文試験はとても重要だと言われています。わたしもいろいろな先生や大学等の先生に論文指導を受けました。そのお陰で試験に合格できたと思っています。東京都の望む教師像や東京都の教育目標は知っていますか。言えますか。過去の論文試験を見てください。

3. 出会いの日

わたしは教師となりました。毎日、ゴミ拾いをして学校をきれいにしています。学校は生徒に関し



剣道の大会にて

て多岐にわたる仕事があります。教科指導もその1つです。時には生徒に厳しく迫らねばならないこともあります。生徒に嫌われることもあります。思うようにいかないことも多々あります。夏休みも長くありません。教育実習とは違います。それでもわたしはこの仕事が好きです。教師になれて本当によかったと思います。

わたしが今あるのは、これまでいろいろな職場(学校)で出会ってきた多くの人たちのお陰だと思っています。いろいろなことを経験し学びました。今でも感謝しています。みなさんもこれから多くの人と関わって行く中で、教師に就かなくても人として他人を思いやり、礼をもって接してください。そして人に感謝する気持ちを大切にしてください。

最後に、みなさんにぜひ考えてほしいことは、「教師になること」が目的ではないということです。もちろん今は、「なる」ことが第一目標であると思いますが、教師としての職責を自覚し生徒を育てたいと常に考えることができれば、すでに教師の一人だと思います。そして教師の「気位」をもって採用試験にのぞむだけです。

健闘を祈ります。いつの日にか学校で会いましょう。



ゴミ置場で勤務主事さんと

教員採用試験体験記(英語)

東京都立足立東高等学校教諭 横瀬 喬哉(平成17年 文学部英語英米文学科卒業)

＜はじめに＞

「やっとここまで来たか。」これが、私が教員採用試験に合格して最初に思ったことです。というのも、私自身が教員になろうと思ったのが、小学校6年生の時の担任の先生への憧れから始まっているからです。それから10年、小学校の教員から中・高の英語の教員へと希望は変わりましたが、教員になることだけを目指してここまでやってきました。

＜教員採用試験までの流れ＞

前置きが長くなりましたが、早速、教員採用までの流れについて、私が受験をした東京都と熊本県を中心に説明していきたいと思います。公立学校の場合、だいたい4月ごろに願書の配布が始まり、5月から6月にかけて願書の受付があります。そして7月に1次試験が実施されます。土日と2日間に分けて実施されるところもあれば、1日で終わるところもあり、試験の内容も一般教養、教職教養、専門科目の試験、論文等の筆記試験を中心として、熊本県のようにグループ面接等を実施する場合もあります。この1次試験の結果が8月上旬から中旬にかけて発表され、同月の中旬から下旬にかけて2次試験が行われます。東京都の場合は個人面接やグループ面接があり、特に個人面接の中では、事前に作成してきた学習指導案をもとに5～10分程度模擬授業を行い

ました。英語や実技教科の場合は、9月上旬さらに実技試験があり、10月上旬に2次試験の結果が発表されます。

＜教員採用までの流れ＞

2次試験に合格すると採用登録者名簿に登録され、12月頃に採用までの流れや心構え等について説明会が行われます。そして、2月上旬から「採用の斡旋」という形で、中学校の場合は区市町村の教育委員会から、高等学校の場合は学校からそれぞれ連絡が入り、校長先生との面接になります。1校につき候補は数名いるので、不採用の場合は再度斡旋を待つことになります。私も1校目では採用にならず、2校目で採用が決まりました。

＜採用試験に向けて＞

私が採用試験に向けてまず心がけたことは、「毎日少しずつでも継続して勉強していく」ことでした。一般教養は別として、教職教養の範囲も法律から心理学に至るまで多岐にわたります。都道府県によって出題されやすいされにくいがあるにせよ、一通り目を通しておく必要があると思います。そして、出来るだけ早い時期から勉強をすれば、毎日の暗記や勉強の量は少なくて済みます。私の場合は3年生の夏休み頃から教育用語や事項の書かれた一問一答集を購入して、毎日少しずつ勉強していきました。

1人でやるだけでなく、同じ教職を目指している友人や後輩に範囲を決めて問題を出してもらったりもしました。

専門科目についても、特に英語の場合は短時間でいくつかの長文を読みこなさなくてはならないので、常日頃から英字新聞等を読んで「読む」習慣をつけておくと思い

ます。また、語彙や熟語を可能な限り増やしておくことはもちろんですが、これとは別に英語教育の用語集にも日ごろから目を通しておくことをお勧めします。

論文についても同様、早い段階から繰り返し書いて練習をし、大学の先生や教育実習先の校長先生等、他の人に読んでもらい、添削をしていただくと良いと思います。

最後に面接について。面接対策の参考書を購入したり、予想される質問の答えを事前に考えておいて友人等に頼んで練習をしておくに加えて、志望理由や自分の長所や短所などを書きとめて「自己分析ノート」を作成するのも良いと思います。私の場合は、そのノートに小・中・高校の卒業年月日や自分の長所・短所をすべて書いておきました。こういった情報は試験時だけでなく、採用の際にも書類や面接で聞かれることが多いので、1つにまとめておく手間が省けて便利だと思います。またグループ面接では、5名前後で複数の面接官からの質問に答えたり、ある課題についてグループで話し合いをしたりします。非常勤講師をされている方などは、現場での経験等をもとにして意見を述べたりして、私のような実習程度の経験しかない者にとっては圧倒される部分もありますが、気にせず、今自分にある経験や知識で話し合いに参加すれば良いと思います。

＜終わりに＞

あれこれと書きましたが、①教員になりたいという強い意志を持つことと②絶対にあきらめないことの2点がまず大事だと私は思っています。忙しい中で勉強するのは大変かと思いますが、勉強すればしただけの結果がどこかで必ず現れると思います。1人でも多くの皆さんが教員になれることをお祈りいたします。



教壇に立つ横瀬先生

教員採用試験体験記(商業) ～教育の現場から～

福島県私立松栄高等学校教諭 山口 大輔 (平成17年 商学部商業学科卒業)

専修大学を卒業し、4月から福島県の学校法人松韻学園松栄高等学校に公民・商業科の常勤講師として勤務しています。これから教職を目指す皆さんに、日々の活動の様子や自分が感じた問題点などをお伝えして、少しでも参考にさせて頂ければと思います。

<はじめに>

松栄高校は総合科・機械科の学科があります。私は「現代社会」、選択科目の「簿記検定」、「秘書検定」、「ワープロ検定」などの科目を週15単位、また総合科3年生の副担任をしているので「LHR」、「総合学習」を週1単位ずつ、計17単位を任されています。また校務分掌では「進路指導部」を担当、部活動は「コンピュータ部」の顧問をしています。

学校で教える・働くのが初めての私にとって、毎日があっという間に過ぎていきます。

<教科指導>

授業は日々実験の繰り返しです。教材研究はもちろんですが、授業展開・方法についても試行錯誤の状態です。他の先生方の授業を見学したり、相談したりして様々なやり方を試しながら、自分の授業で使える選択肢を増やしています。「現代社会」では学習後に「生徒が新聞記事を理解できるようになる」ことを目標にしています。ですから基礎・基本の内容はもちろんで



生徒に囲まれる山口先生(右から3番目)

すが、日々の時事問題にからめた内容を優先に扱うようにしています。

商業の選択科目は各種の検定試験があるので、履修した生徒たち全員が合格できるよう放課後の講習を実施しています。それぞれの生徒で目標としている検定・級が違うので、準備もそれぞれにしなければなりません。大変ですが、生徒たちに合格の喜びを実感してもらえるべく、2学期の検定試験を目標に生徒も私も頑張っています。

<進路指導部>

進路指導部での仕事は、進学先・就職先からの来客の対応、進路資料の整理などです。また6月は就職希望生徒のインターンシップ指導、夏休みには3年生全員に作文・論文指導、資料作成指導、

面接指導などの進路指導を集中的に実施しました。私は主に履歴書指導、面接指導を担当しましたが、指導・練習を繰り返すたびに態度や内容などが上達していく生徒たちに驚くばかりでした。2学期から本格的に進路活動

が始まりますが、全員の進路が実現できるように精一杯サポートしていきたいです。

<生徒指導>

教師は授業中、日常生活、また勤務時間以外でも生徒にとっては教師です。そして生徒に接する時はいつでも生徒指導の場といえるでしょう。生徒の前では自分の感情は出せませんが、自分の気持ちを本気で伝えないと、生徒も心を開きません。

私は普段から生徒に対し、何気ない会話でも耳を傾けてコミュニケーションをとるように心掛けています。生徒の機嫌をとるのではなく、生徒の気持ちを理解した上で、全力を尽くして生徒指導ができる教師を目指しています。

<最後に>

私は将来の夢であった教師として教壇に立っています。教育実習では見えなかった苦労や、思い描いていた理想と現実との違いを実感したこともあります。ですが、生徒が様々な場で成長した姿を目にする時に、教師としてのやりがいや楽しさを実感できます。

最後に専修大学から多くの教師が輩出され、活躍することを願っています。



教育実習を終えて（社会）

実習校：神奈川県相模原市立清新中学校 経済学部国際経済学科 4年 高井 桃子

わたしは、この実習には、人1倍いや、2倍の意気込みを持って挑みました。教職の授業を通して学んだ事を生かすというよりは、自分自身を試すことを一番に考えました。わたしにとって、「教師」とは、長い付き合いになります。というと妙に感じますが、小さい頃から夢だったのです。ある意味、今まで出会った先生は、わたしのモデルだと思っています。「あっ！あの先生いいな。」と思うと、理想となりました。しかしながら、わたしの「理想の教師像」がどうしても目に見えてこない。こんな思いを持ちながらも、念願の実習へ臨んできました。

校門を通過して、下駄箱に靴を入れて深呼吸。忘れもしない初日の朝でした。これから、良くも悪くも3週間の実習が始まる時のわたしは、冷静であったように思います。職員室にいる自分、廊下を歩く自分、生徒に挨拶を交わす自分、どれもこれも初めての体験でかっこよすぎました。しかしながら、わたしが担当した1年6組は、担任の先生との信頼が強く、生徒はわたしではなく担任の先生に夢中でした。まるで、それは、親子のような強い絆に見えました。わたしは、この教室の中でいったいどのようにすればよいのか。全く見当もつかない状態でした。

一呼吸するごとに「これ、ため息かよ?!」といったことにも慣れてきたちょうど1週間、わたしの受け持っていた1年生が3日間自然教室（移動教室）へ出かけてしまいました。子どもたちを一人で見送った後少し目頭が熱くなり、たった1週間で子どもがわたしに与えている影響力を肌で感じました。移動教室中には、わたしの自宅の近所であるということもあり、夜のレクレーションに参加し、先生方の秘密の出し物「マツケンサ

ンパ」を一緒に踊り、子どもたちのキャーキャー声に「先生」の醍醐味をもう1つ味わった瞬間でありました。

授業を繰り返し、子どもの反応は毎回違っていて、同じ授業を4クラスで行えば、4クラスとも違った授業になりました。わたしが教室に入ると、子ども達は「あれ。今日は・・・」と違和感のある中、わたしの授業へと積極的に参加してくれました。わたしは、授業毎にプリントを作成し、家に帰り夜通し準備を重ねました。プリントにキャラクターを載せて、興味を引かせてみたり、模造紙に地図を描き、関心を集めたり、わたしなりの授業を作りました。授業が終わると、「先生、次はドラゴンボールGTの悟空がいいな」というリクエストも受けました。また、わたしの作成したプリントを丁寧にノートに挟んで保管する姿を見て、「よし！もういっちょ頑張るか。」と気合も入りました。わたしにとって、教材作りは、実習中での何よりもの楽しみの一つでした。授業で披露すれば、子どもたちは、一斉に目を輝かせ体全体で表現してくれます。わたしは、「この子どもたちがいるから授業ができています。」それを、節々に感じる事ができ、毎日学校へ行く事が楽しみでした。

わたしは中学時代バレーボール部に所属していたので、放課後は決まってバレーボール部の指導をしましたが、他にも柔道部、陸上部、サッカー部そしてバスケット部の部活にも顔を出し、授業中とは違った子どもたちの表情を見ることができました。普段の生活から見受けられない一面から、次の日の会話へとつながり他学年生との絶好の交流の場ともなり、短い期間

を有効に活用する手段ともなりました。

「桃子先生」と呼ばれ、顔がにやけてしまう。全身で、「教師」を感じてきました。わたしの過ごした3週間は、夢のような3週間でした。わたしの「理想の教師像」も少し見えた気がします。先生方は、互いに協力し合い、何かひとつのチームとして存在し“5レンジャー”のようでした。赤レンジャーだけいても、子どもは救えない、青・緑・黄色・ピンクがいて初めて、全ての生徒が信頼してくれる。わたしは、本当にとてもよい環境で実習をする事ができたと思っています。この実習では、抱えきれない事を学びました。先生方はもちろん、子どもたちからは、切実で純粋な想いをもらい自分という人間を高められた気がします。夢を夢で終わらせないために、これからも頑張っていこうと思っています。最後に、担任の先生が子どもたちに向かって話していた言葉で、これは私自身がこれから生きていく中で、大事にしていきたいことでもあります。

「人の出会いなんて、いくらでもあるの。それを大事にここまで来るか、来ないかは自分次第なんだよ。」

今後実習へ行かれる皆さんも、自分から行動すれば必ず結果は反映してくれるはずです。精一杯頑張ってください。



中央が高井さん

教育実習を終えて（国語）

実習校：神奈川県藤沢市立藤ヶ岡中学校 文学部日本語日本文学科日本語学専攻 4年 小池 由布

本当にあっという間の3週間でした。事前に抱いていた不安など初日の数時間で吹き飛び、毎日が充実と喜びにあふれた実習期間でした。実習を終えて私のもに残ったものは、生徒たちの元気な声と笑顔、もらった色紙と感謝状、そして絶対に教師になろうという確固たる決意です。

私は2年生全5クラスの授業を計17時間受け持ちました。授業数が少ないのは体育大会の練習などが入ってしまったため、天候によって授業が突然変更になってしまったりつぶれてしまったりもしました。

授業で一番驚いたのは、同じ授業を展開していてもクラスによって全く雰囲気が変わってしまうということです。積極的に発言の多いクラスは、授業に活気があり内容も発展的に進められるのですが、時間が多くかかってしまうために他のクラスより進度が遅くなってしまいました。また逆に発言の少ないクラスでは、いかに生徒の考えを多く引き出して積極的に授業に取り組ませるかがとても大変でした。クラスごとに生徒の理解度や、授業の進度に差が出ないようにするには、早くクラスの特徴を掴み、それに合った授業を考えて展開していかなければなりません。そのために教材研究を十分にしておくこと、発問計画をじっくり練ること、そして授業見学の際や休み時間、放課後などにクラスの様子をよく観察しておくことが必要でした。クラスの雰囲気というのは驚くべきことに教室の中の掲示物や、座席の並び方にも表れるものです。私が授業見学をする際に、指導教官に最初に言われたことは『授業見学の時は先生が授業をどのように進めているかということよりも、教室の中の様子と生徒一人一人の特徴をよく観



前列中央が小池さん

察して些細なことでもいいから気付いたことをどんどんメモしていきなさい』ということでした。実際にそのメモは授業計画を練る際や、授業時にとても役に立ちました。たった3週間でクラスごとに合った授業を展開していくのはなかなか難しいことですが、生徒とコミュニケーションを多く取ることでお互いに理解し合えるし、効果的な授業をすることができるようにもなったので、人間関係を築き上げることの重要性も実感しました。

授業以外では、できるだけ多くの部活に参加しようと努力しました。運動部・文化部・女子部・男子部とたくさんの部活があったので1日に2～3の部活を回ったりもしましたが、見学するだけよりもやはり参加して一緒に汗を流した方が、生徒との距離も近くなり、すぐに仲良くなれました。部活や体育大会の練習時は他学年とも接することができるチャンスでもあったので、そういう時間に実習生の特権をフルに生かして楽しい時間を過ごすことができました。

私は教育実習生としてこの3週間で過ごしてきましたが、生徒た

ちは私のことを『先生』と呼んでくれるばかりではなく、実際にそのように扱ってくれました。それはとても嬉しい反面、重大な責任が伴っているという事も痛感しました。実習生だから少しぐらい失敗してもいい、どうにかなると思えるのはとても失礼であるし、生徒たちの大切な時間を無駄にさせるわけにはいきません。実習生の授業であろうとベテランの先生の授業であろうと、生徒にとっては同じ1時間です。生徒たちが多くのことを学び取って成長していけるように教師が努力するのは当たり前のことなのだと、実習前には考えもしなかったことを感じました。それに、生徒たちの笑顔を前にすると自然とパワーがあふれてくるものです。そのパワーを糧に生徒たちと一緒に成長していけるような充実した実習期間を過ごすために、これから実習に行くみなさんは楽しく、そして真摯に生徒たちと向き合う覚悟を持って全力投球してきてくださいね。みなさんの努力は必ず生徒たちに伝わります。笑顔いっぱいの実習生活を！！

教育実習を終えて（英語）

実習校：千葉県立成東高等学校 文学部英語英米文学科4年 秋葉 亮子

私は5月の30日から3週間、母校である千葉県立成東高等学校で教育実習を行いました。実習が始まってからの数日間は「学校」という場所に慣れることだけで精一杯でしたが、自分からできるだけ多くの生徒に接していくうちに次第に環境に打ち解けられるようになりました。生徒の中に飛び込んでいくということは少し勇気のいることですが、生徒たちが自分をどのように見ているのかを気にするのではなく、こちらが生徒を信じてあげなければならないと感じました。そのためには、まず率先して自分がどのような人物であるかを生徒に知ってもらおうとする姿勢が大切だと思います。自分の成功談、失敗談や高校の頃の思い出を話していくうちに生徒との距離が縮まったと感じます。私は1年H組のホームルームを担当しましたが、朝と帰りのホームルームのみでしか生徒たちと顔を合わせることができませんでした。そのためホームルーム以外の時間で少しでも生徒たちと触れ合う時間を作ろうと努力しました。私にとっては、たとえその時間が放課後の清掃時間や廊下で交わした挨拶であったとしても貴重な時間であったと思います。どんなに忙しくても、生徒と接している間は、自分の忙しさも忘れていました。学校生活の中で生徒のことを一番に考えるという大切さを知りました。

また教科指導では様々なことを学びとることができました。授業を実際に実践した上で今までは気づかなかったことに気づくことができました。毎回、授業後には教科担当の先生からコメントをいただき、指摘を受けた改善点を次の授業にどう活かしていくのかを考えることで今まで自分の

授業に欠けていたものを得ることができました。まず私が授業を組み立てる上で苦労したことは時間配分です。実習前に大学で模擬授業は数回行いましたが、受講生の人数の関係上、限られた時間内ではしか模擬授業を行うことができませんでした。高校での実際の授業は50分ですので、時間配分に慣れ



前列中央が秋葉さん

ていない状態で実習を行うことになってしまいました。そのため、時には立案した指導計画の3分の1ほどしか実際に扱うことができない授業もありました。授業にテンポがなくどうすれば今の授業から一歩前に踏み出せるのか悩んだこともあります。時間配分は難しい課題ですが、失敗しないためには細かい準備と計画が必要だということを痛感しました。考えすぎてほとんど睡眠時間がないということもしばしばありましたが、生徒たちのために授業を練ることに費やした時間は特別なもので、不思議と疲れというものを感ずることはありませんでした。次に難しかった点は授業内での生徒とどう関わってゆけばよいかということでした。少人数での授業が最近導入されてきてはいますが、まだまだ1人の教師対40人の生徒という形態での授業は多く行われていま

す。授業は教師と生徒のコミュニケーションが重要ですが、決して1人の生徒とのやりとりになってはいけなと感じました。どんなに小さな質問でも生徒全員に投げかけてあげることが大事です。40人もの生徒がいるとなると発言の少ない生徒のことを忘れがちになってしまいますが、生徒1人1人の発言を細心の注意を払って聞いてあげることがクラス全体の生徒とのコミュニケーションにもつながると思います。

3週間という短い期間ではありましたが、周りの人たちや環境に恵まれとても充実した教育実習ができたと思います。最後の授業で生徒に将来の夢を聞いてみたときに、ある生徒が「先生を見ていたら教師になりたいと思った。」と言ってくれた時の感動は今でも忘れられません。これから実習に行かれる皆さん、授業がうまくいかなかったり、自分の不甲斐なさに落ち込むことがあると思います。でもそれはその人の個性であってその人しか経験できないことでもあるのです。自分なりに生徒のために何をしてあげることができるのか一生懸命に考えてあげてください。そして生徒の目線に立つということを忘れないでください。たとえ辛いことがあってもそれぞれが誠実に生徒と正面からぶつかっていけば、生徒は受け入れ理解してくれるはずですよ。どんな時にも笑顔を忘れずに精一杯頑張ってください。

教育実習を終えて（商業）

実習校：群馬県太田市立大田商業高等学校 商学部会計学科4年 堀井 義幸

高校時代の恩師にあこがれ自らの意思で教職課程を履修しましたが、一番のネックは教育実習でした。「ちゃんと授業が出来るだろうか?」「生徒に受け入れてもらえるだろうか?」「先生方に迷惑をかけないだろうか?」こういった様々な"不安"のイメージしか頭に無く、「教育実習＝不安」という式が自分の中で成り立っていました。

私は母校で二週間の教育実習を行いました。当初の担当科目は情報処理でしたが、2単位の授業であったため十分な実習が出来ないとの判断から指導教諭の配慮により5単位の簿記の授業に変更して頂きました。そのおかげでHRのクラスと授業担当のクラスが一緒に、クラスの生徒と接する機会を多く持つことが出来、すぐに生徒と打ち解けることができました。初めて生徒から「堀井先生」と呼ばれた時は嬉しかった反面少し恥ずかしかったことを覚えています。

私は二週間の実習の中で授業見学を20時間、教壇実習を4時間行いました。授業見学では自分の担当教科に係わらず様々な先生方の授業を見学するのがいいと思います。そして授業の導入・展開・まとめの時間配分や生徒への働きかけに重点を置いて見学をすると自分の授業を組み立てやすくなります。自分で授業を行うということはまさにゼロからのスタートです。まずは見学させていただいた先生方の授業のいいと思えた点や気が



付いた点をノート等には書きとめてそれを自分の教壇実習に取り入れるといった形をとるのがいいと思います。

私の初めての教壇実習は二週目の初日でした。「堀井先生独自の授業を見てみたい」ということで指導教諭からの事前指導は特にありませんでした。当日の朝は実習初日と同じくらいの緊張感に襲われ、学校に着いてからも板書の仕方や、指導案に目を通して授業の流れを確認したりして頭の中で授業のシミュレーションをしました。そしていざ本番。事前の準備にはとても多くの時間をかけましたが本番の50分というのはあっという間に過ぎてしまい、自分でも驚くほど落ち着いて臨めました。しかし予定していた内容の半分程度しか終わらせることができず初めての授業の出来ははっきり言って悪かったです。時間が足らなかった理由としては説明の手際の悪さがありました。あらかじめ生徒に伝える事はちゃんとまとめておいたのですがいざ教壇に立ってみると生徒に伝わっているか不安になり、同じ説明を二度、三度と繰り返してしまいました。指導教諭からは「丁寧な授業で良かった」という評

価を頂きましたが50分という時間の中で授業を行う事の大変さ、難しさを身をもって体験しました。その後一度の教壇実習を行い、三度目で研究授業を行いました。研究授業は今までの教壇実習とは異なり指導教諭の他に教頭先生などを含めた多くの方々が見学しました。その分緊張もしましたがそれまでの実習のおかげもあり、授業を始めると落ち着いて行うことができ、自分としても良い授業ができたと思っています。最後の教壇実習は自由に使っていていいということで生徒から要望のあった席替えや雑談をして過ごしました。授業終了後に花束や寄せ書きをもらったときはとても嬉しく、感極まって泣いてしまいました。

最後に、私は二週間の教育実習を終えて“不安”が“充実”に変わりました。教育実習中は生活リズムが不規則になりがちです。体調を崩してしまったらせっかくの実習も台無しですから体調管理には十分気をつけてください。また、分からない事はどんなことでも質問したほうがいいと思います。こういった基本的な点に注意すればあなたもきっと充実した教育実習を送ることができるはずです。



実習生仲間と（2列目左から2番目が堀井さん）

教育実習を終えて（情報）

実習校：静岡県立榛原高等学校 経営学研究科経営学専攻修士課程 永田奈央美

1. はじめに

私は静岡県立榛原高等学校(母校)で教育実習をやらせていただきました。2週間という短い時間でしたが、有意義な時間でした。この教育実習で、17年間も追いつけてきた「教師になりたい!」という夢がますます大きくなりました。

2. 教科「情報」の現状

教科「情報」は、「コンピュータの使い方だけを学ぶ教科」であると勘違いされているかと思います。しかし、本当は「情報を活用する能力を高め、情報社会に主体的に対応できる力を育てる教科」なのです。

ところが、生徒から「パソコンが使えるようになりたい。」「この授業はパソコン教室みたい。」という生の声を耳にしました。現場に出ることで、教師と生徒との間に教科「情報」に対する認識のすれ違いがあることを実感しました。

3. 教壇実習

指導教員が『やりたいように授業をやっていいですよ。失敗を恐れなくてとにかく実践してみてください。』と助言して下さいました。

ので、あえてパソコンを使わない、コの字型のディスカッション形式で教壇実習を展開しました。

教壇実習では、情報の送り手は受け手の状況を考慮して、わかりやすいように情報伝達すること。情報伝達の様々な手段を理解し、その手段を主体的に選択すること。の2点の必要性を認識させることを目標としました。

そこで、「パソコン型ロボット君」を作成し実験を行いました。実験の内容を簡単に述べると、衝突の向こうにいる受け手にパソコンロボット君の組み立て方（情報）を伝達し、受け手に組み立て方を理解してもらうよう工夫するという実験です。

この実験を通して、生徒からは「これからは、相手の立場に立って思いやりをもって情報伝達したいです。」「情報の授業はパソコンだけじゃないんだなあってことがわかりました。」という意見が飛び交い、とても嬉しくやりがいを感じました。この教材作成は、ロボッ



作成した授業教材

ト君作成・学習指導案・プリントの作成を含め、約20時間かかりました。たった65分の授業を展開するのに、その背景には膨大な時間がかかっていることを知り、教師の大変さが身に沁みました。

4. これから教育実習へ行くみなさんへ

正直、学校現場にとって、教育実習は大きな負担だと思います。教育実習前後の段取り、実習生の受け入れ、指導教員による教科指導や学級活動についてのご指導にとどまらず、実習生が居なくなっからの生徒へのフォローや進度の調整などが必要となるからです。それにもかかわらず、実習生を受け入れていただけるのは、「先生になりたい。」という実習生の熱意に応えたいという暖かいご配慮とご期待があるからなのではないでしょうか。

真摯な姿勢で、その真剣さと熱心さで生徒たちの前に立つことが重要だと感じます。たとえ失敗しても、心の通じ合いがありさえすれば、「教育」の営みの一端にふれることが出来るでしょう。

「単位がとればいい。」「教員免許だけあればいい。」と思うのは、御法度!!

教育実習は、ただの「単位」では計れないあなたの財産になるはずです。



パソコン型ロボット君を取り扱う永田さん

教育実習を終えて（数学）

実習校：東京都私立専修大学附属高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 平野 栄士

私は6月1日から21日までの3週間、母校の専修大学附属高等学校で教育実習を行いました。人に教えるのが好き、自分の好きなことを多くの人に好きになってもらいたい。そんな持ち前の性格と数学が特に好きだったことが合わさって、高校生の当時から数学の教員になりたいという強い思いがありました。そのため、教職をとる事にためらいはありませんでしたし教育実習も非常に楽しみでした。悔いを残さずに教育実習を終えたかったので、教職科目は熱心に取り組みました。また、数学で教育実習を行う友人と共に勉強会を開いて、模擬授業で相互評価したり、実習前に授業を見学させて頂いて授業研究をしたり、学校行事の数学合宿に参加させて頂くなど、充実した実習にするため事前にできる限りの準備を行って臨みました。私が担当した科目は、1年生の数学A（2単位）と数学Ⅱ（4単位）を各2クラスずつだったので、毎週6種類の指導案を考えるのが大変でした。しかし、たくさんの授業を経験することができたので非常に良かったと思います。

最初の3日は指導教官の先生や他の先生方の授業見学を行って自分の授業イメージを作り、授業を担当し始めたのは4日目からでした。実際に授業をしてみると、ど

んなに完璧だと思う指導案を作っても、中々思うようにいかない部分も多くあって最初は戸惑いました。しかし、数回の授業を通して生徒に問題を解かせる時間や、問題によって解説する時間の配分が分かるようになってきたので授業らしい授業はできるようになりました。そして問題は教え方です。ただ教科書に書いてあることを説明するだけでは面白くない授業になってしまい、かといって話を広げすぎても授業が進まなくなってしまいます。生徒の興味を引き付けて分かりやすく楽しい授業をするというのは、本当に難しいことを実感し、先生方の凄さを改めて実感しました。

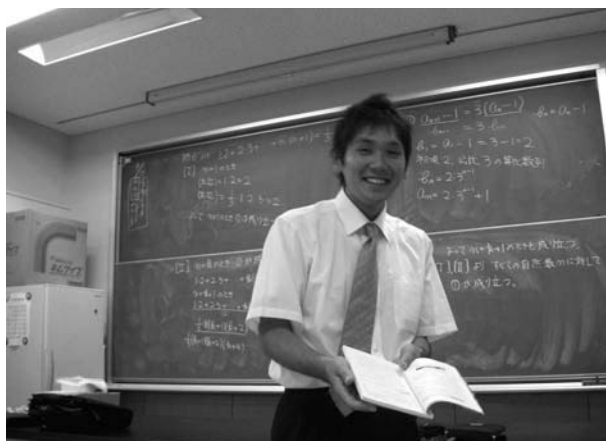
また、特に苦労したのは解説の仕方です。数学Aで順列や組み合わせの問題では、式そのものよりも、その式が何を表しているのかを説明することが大切です。私はついつい口で説明する癖があり、板書の内容が不十分になってしまった箇所がありました。また、教科書の内容を全て書いてしまっては、板書量も多くなるため生徒も飽きてしまいます。従って、省略すべき箇所と重点的に説明することを極めることが非常に大変でした。そのためには、教科書の内容の完璧な理解は勿論のこと、それ以外にも幅広い知識を身に付けておく必要があると思いました。そのことは前々から分かって



はいたものの、まだまだ勉強不足の感が否めませんでした。そして、教科書の例題では生徒によっては説明が足りないことも多いので、途中式を多く板書したり、式の変形を色チョークで書き分けて説明したりなど自分なりに工夫しました。

教科指導をするにあたって、教える単元の勉強は勿論のこと、その前後の単元とどのような繋がりがあるのか、その単元の歴史的背景など多くの知識を身に付けておくことで、説明のバリエーションも豊富になります。そして1つの問題でも、こういった解法のパターンがあるのか、どのような説明の方法があるのかなど、クラスの雰囲気や生徒のレベルに応じて臨機応変に対応する必要性を教育実習を通じて学ぶことができました。

これから教育実習を行う人へのアドバイスですが、とにかく教育実習を楽しむことが大切だと思います。楽しむためには、実習前によく勉強しておくことは勿論大切ですが、先生や生徒とのコミュニケーションをしっかりと取ることが大切です。多くの先生と仲良くすることで、教科のことなど色々なことを相談することもできます。そして、生徒と仲良くすることで実習が楽しくなるのは勿論、良い思い出にもなると思います。



介護等の体験を終えて

科目等履修生 柳井 宏一

「充実したっ！！」

最初はどうかと不安が多かった介護体験も、終わってみるとそう叫びたくなるほど充実した7日間になるとは予想も付きませんでした。

私はデイサービスの社会福祉施設で5日間体験をして、お年寄りの方とお話をしたり、車椅子に乗らせて頂いたりしました。自分の祖父母と話す機会はあっても血の繋がっていないお年寄りと話す機会はめったにないと思います。体験が始まるとお年寄りのために何かしなければと話しかけてはみたものの、最初は何を話していいのか分からず戸惑っていました。すると、お年寄りの方からいろいろな話をしてくださいました。その中で戦争のことや昔の事などを話して頂いた際は実際に体験された方々のお話のため、教わることが多く、相槌を打ったり簡単な質問をすることしかできませんでした。あまり話すことができなかったためにお年寄りのためにならず、申し訳ないと思っていると、最後にお年寄りの方が「年寄りの話をちゃんと聞いてくれてありがとね」とおっしゃってくださいました。あまり話せなかった私でしたが、話をよく聞いて質問をすることでコミュニケーションになり、少しでもお年寄りのためになっていることが実感できてうれしく思いました。

また、車椅子の実習では実際に乗せて頂き、館内を回りました。すると「ガガッ」となり車椅子が止まりました。何か踏んだかなと思い、車輪の下を見ると自動ドアのレールでした。もちろん館内は利用者のためにバリアフリーになっていましたが、普段自分たちが気付かないような小さな段差でも

障害になってしまっていたのです。それは車椅子に限らず、杖を突いて歩いている方や足が悪くなってしまう方にも当てはまることです。バリアフリーになっている館内でスムーズに移動することができなかったため、まだバリアフリーになっていない道路や建物だとどうなるかは容易に想像がつかしました。現在もバリアフリーはしきりに叫ばれ、電車の駅構内でも急速に進み始めています。私は、自分も交通事故などでいつ障害者になるか分からないし、高齢者には誰でもなるためバリアフリーは必要だと考えていましたが、実際に車椅子で体験をするとその大切さが痛いほどよく分かりました。

そして、残りの2日間は養護学校で体験を行いました。最初は生徒と仲良くなれるかどうか不安でしたが、養護学校に入るなり何人もの生徒が初対面の私に元氣よく挨拶してくれたため、その不安も次第に薄れていきました。その後、家庭科と木工の授業に参加しました。一人一人が洗い物をしたり、木を切ったりする仕事で企業にインターンシップに行くので、準備から片付けまで一生懸命行っていたのが印象的でした。生徒にどのようなインターンシップに行くのか尋ねてみると、笑顔で返答してくれたため、とても楽しみにしている様子が窺えました。自分の将来について考え、それに伴って仕事を一生懸命する姿は見習うものがたくさんあります。また、先



生は生徒に対して優しいのですが、甘やかすわけではありませんでした。それは授業や部活動、生活面で先生方が怒ったり指導したりする場面で、生徒たちはその場ではしっかり反省し、しかし引きずることもないため、良き信頼関係が築かれていることを学ぶことができました。

社会福祉施設や養護学校での体験は、一見関係なさそうな普通の生活にも通じるものがあり、貴重な社会勉強となりました。また、実習前と実習後の印象が大きく変わったため、実際に体験してみるものの大切さも学ぶことができました。普段通りの生活では体験できないからこそ、自分で学ぼうとすれば様々なことが学べると思います。これから介護体験を行う生徒のみなさんも一つでも多くのことを学べるようがんばってください。



司書・司書教諭課程



ビデオに見る図書館～図書館発見の手がかりに～

文学部 兼任講師 千葉 治

1. はじめに

私がビデオ撮影を始めたのは1992年8月からである。撮影対象はいろいろだが、各地の公共図書館を中心に図書館に関する講演会も多い。当初はHi8方式で、1996年暮からはデジタル方式で、全部見たら1000時間にもなろうし、一生かかっても見ることはあるまい。カメラの時にも喋る妙な癖も付いたし、三脚もあまり使わないし大型画面では目が回る人もある。それでも注文もあり、実費で制作して「ビデオボランティア」を自称している。

佐賀市立図書館長辞任に際しては講演会等の「ちばビデオライブラリー」をのこした。

一昨年から専修大学の司書課程の科目を受け持つようになり、自作のプリントと主として自分が撮影・編集したビデオを教材としているので、そのビデオの一部を紹介しよう。なお、町村合併や改築等により現在は名称変更になったりなくなったものもある。

2. 1 自己紹介をかねて

ビデオ撮影始めは、1992年東京都墨田区立八広図書館であった。

高層団地1階の図書室と集会室を持った1000m²余の図書館では多彩な利用があった。入口のロビーでは、新聞閲覧と同時に囲碁・将棋・チェス・オセロなどが行われ、「掲示の広場」の掲示板、「手作りの広場」の展示

ケース、地域の人の作品が壁にかけられ、図書館の「てづくりタイム」でこどもたちと色々な手法で作った大型紙芝居もあって貸出もしている。図書室には時事コーナーやヤングアダルトコーナーがあり、観光パンフレットや25000分の1地形図を始め様々な資料があり、地域の人たちが使いこなしている風景がある。ピアノと卓球が同居し、ダンスやカラオケが行われている多目的ホール、一人からでも使える和室や板の間などすべて無料の集会施設、「本のある広場」を実践した下町の図書館である。

1996年3月から私は出生地である佐賀市の図書館の開館準備に変わり、広い公園の中に9500m²という施設と市民の熱意ある取り



組みに支えられ、県内外からの見学や色々な行事など映像にも広がりがでてきたといえる。夏になると「ゆかたでお出迎え」など多くの職員の姿など学生には強いインパクトを与えたようである。囲碁・将棋コーナー等広いスペースとなり、館報「本のある広場」も発刊し、大きいぬいぐるみのパンダや佐賀の風物詩のタペストリーの間を一日平均3000人の入館者で賑わう文字通り「本のある広場」であった。

2. 2 新しい図書館のすがた

最近では珍しくもなくなったBDS（ブックディテクションシステム）をいち早く取り入れたり、インフォメーションやレファレンスのデスクを置くなどした市川市中央図書館、解放感のある建物でゆっくり飲食したりして過ごせ「滞在型図書館」といわれたり、ヤングからの投書をまとめて冊子にした朝霞市立図書館には全国から見学があっただろう。

滋賀県の町立図書館には、博物館等との併設をたくみに取り入れた能登川町立図書館、「町のこしカード」等に意欲を見せる愛知川町立図書館、AV資料の返却ポストがあり、人工膀胱・肛門所持者のオストメイトや太陽光発電装置もある日野町立図書館等がある。

市民活動のために自由に使える



読み聞かせをする千葉先生

フリースペースが用意されている愛知県田原町図書館には地域を4コースで巡回して利用者を運んでくれる「ぐるりんばす」がある。ビジネス支援や多文化サービスを重点にした静岡市立御幸町図書館が駅そばのビルにできた。

2. 3 むかしの図書館も

帯広市図書館、東京都足立区立千住図書館、コンピュータ以前の貸出方式や目録など、建物だけでなく備品や書式などがあったり写真などで説明があれば理解しやすい。図書館用品などを保存していく「図書館博物館」とでもいうものが必要ではなかろうか。

2. 4 資料保存や協力

よそでとっていないであろう雑誌を保存している岡山市立中央図書館や土地柄映画関係資料を多く所蔵している調布市立中央図書館、書庫を自転車で走り回る大阪府立中央図書館から、それが利用者のもとに届くという働きを見るのも大切なことであろう。

学校図書館ルームをもち様々な支援・協力を行っている富山県小杉町民図書館もある。

2. 5 動く図書館のすがた

鹿児島県瀬戸内町立図書館の自動車図書館「かけはし号」が奄美大島の南の加計呂麻島を2週間に1回巡回しているすがたは、海辺で本を読むおとなや駆け寄ってくる中学生や小学生の健康な笑顔に自動車図書館の発見と人の発見を感じている人も多いようである。

2. 6 スペンサー・ショーの講演に感銘

1995年、スペンサー・ショーの講演を三脚を使って公式にビデオ撮影する機会を得た。講演その

ものも2時間に及ぶもので晩餐会も含めればもっとということになる。通訳もあり30分弱の映写になったが迫力があり感銘したと感想もあり続編を映写したりした。

2. 7 わんぱく文庫のビデオに障害者サービスを発見

「ここには私の読める本がある」という2年前制作され購入したビデオを映写したとき学生からの質



問があり、問い合わせて答えたりもした。35分かかるが再度のリクエストもよせられ図書館利用に障害ある人（主として視覚障害者）へのサービスの発見に役だった。

2. 8 文庫やNPOの図書館

仙台の家庭文庫である「のぞみ文庫」、東村山市の地域文庫である「東村山電車図書館」高知市にある「特定非営利活動法人高知こどもの図書館」を映写した。利用者との対応は学ぶべきものがあり、図書館を理解する上で、文庫の心は大切なものである。

2. 9 住民参加・ボランティア

地域のグループに図書館の自然と環境のコーナー「風倒木」を委託している八日市市立図書館。図書館友の会のスペースを提供して

いる伊万里市民図書館と図書館づくりの住民の図書館見学には積極的に図書館案内を行う図書館友の会の人たち。図書館友の会が図書館まつりに積極的に関わっている鶴ヶ島市立中央図書館。図書館の内外に色々な形でボランティアの参加が見られる福岡県豊津町立図書館など現代的な課題であろう。

3. おわりに

- ・ 図書館の発見が主眼だがなるべく講義内容に沿ったビデオを選ぶようにしている。
- ・ 前期、後期の二科目について、なるべく違ったものを組み合わせるようにしている。
- ・ 行ってみたい図書館ができたり、リクエストが出たりして撮影に行くときもある。
- ・ 最近は撮影禁止や制限が厳しくて撮影ができず、見学にも行かないところもある。
- ・ 教材にするつもりで撮影しているわけではないので編集するのに苦労する。
- ・ デジタル編集などやっていないので誰かやってくれるといいなあと思っている。
- ・ 図書館見学においてそこに誰がいるかが大きな要素になる。



卒業生から

日本原子力研究所 研究情報部 情報メディアライブラリー勤務 池田 貴儀(平成14年度 専修大学商学部商業学科卒業)

私は小さい頃から本が苦手でした。活字を読む根気と気力があまりなく、大学に入るまでは、小説を含めハードカバーの本を読んだことがほとんどありませんでした。そんな私が、図書館に興味を持つようになったきっかけは、友人が図書館学の勉強をしていて、「図書館について学ぶ」とはどういうことかを知りたくなったからです。そこで、私は専修大学で司書課程を履修し、卒業後さらに専門的に図書館について学ぶため図書館情報大学（現在の筑波大学図書館情報専門学群）の大学院修士課程に進学しました。そして2年間の大学院生活を経て、日本原子力研究所（茨城県東海村）に就職しました。

私の勤務する日本原子力研究所の図書館（情報メディアライブラリー）は、原子力分野を中心に、物理・化学等の基礎分野から応用科学分野まで多岐にわたる学術資料（図書、雑誌、レポート）を収集し研究者に提供する専門図書館です。ここで、私は図書、国内雑誌及び外国雑誌の収集業務を担当しています。

収集業務は、1ヶ月サイクルの業務及び1年サイクルの業務に分けることができます。1ヶ月サイクルの業務は、図書の選定、購入依頼、受入、分類、目録、支払作業及び国内雑誌の支払作業です。月の前半は図書の選定、購入依頼、分類、目録作業を主に、また、後半はその月に入荷した図書及び国内雑誌の支払作業が中心となります。

1年サイクルの業務は、次年度に購入する外国雑誌の選定、入札、契約、受入、精算です。毎年、4月～8月にかけて次年度に購入す

る雑誌について収集方針の策定、図書委員会を開催しての説明、利用者アンケートの実施等を経て、購入予定雑誌を決定します。9月～12月には、関係課室と打ち合わせて購入金額を確定し、入札、契約業務を行います。1月～3月は、当該年度に入荷した雑誌の精算業務があります。

私が担当している業務は、皆さんが図書館員に対して持つイメージ（利用者対応のサービス業務）とは若干かけ離れているかもしれませんが。私も利用者受付カウンターに座ることはありますが時間的にはそんなに多くはありません。むしろ事務系の経理業務に近い業務を多く含みます。しかし、このような業務も図書館を運営していく上で欠かすことのできない業務なのです。

最後に、司書課程を学んでいる皆さんへのメッセージを書かせていただきます。「もし、皆さんが図書館への就職を考えているなら学生時代に一つでも多く図書館に足を運んでください」。図書館は多種多様です。公共図書館、大学図書館、専門図書館等と種類がありますが、公共図書館一つとっても都道府県立、市町村立図書館と色々あります。実際に図書館を訪れて、そこで働く職員の話聞いて、現実の図書館が抱えている問題と司書課程で学ぶことの違いを感じるとともに、自分がどの図書館に向いているか、働きたいかを考えて下さい。そして、授業で学ぶ



理論と実技を十分に体得し、多面的な角度から図書館を考え、意欲をもって図書館の世界に飛び込んできてくれることを期待しています。

～追記～

私の所属する日本原子力研究所は、平成17年10月1日に別の法人と統合して、独立行政法人日本原子力研究開発機構となります。既存の二組織の図書館が一つになるということは、新たな図書館の一つ作ることは、また異なる難しさがあります。今後、日本原子力研究所の図書館は、約50年の歴史に幕を引き新たな組織で活動を開始しますが、私はこのような変革の時に、図書館員として携われたことをうれしく思っています。



図書館の建物外観

図書館実習を終えて

実習館：新潟県新発田市立図書館 科目等履修生 神田 朋

私は8月上旬の2週間、新潟県新発田市立図書館で図書館実習を行いました。私は新発田市の出身なので新発田市立図書館は、小さいころからよく行っていた馴染みのある図書館でした。そのような良く知っている図書館での実習でしたが、やはり最初は緊張し戸惑いました。しかし、職員の方々がとても親切で丁寧に教えてくださったのですぐに慣れて、毎日実習に行くことが楽しかったです。

新発田市立図書館の職員には館長を含め8人の職員の方がいらっしゃいました。そのうち司書の資格を持っている方は一人だけでした。しかし他の職員の方々も講習会などに出席されていて、積極的に取り組んでいる感じを受けました。またカウンター業務はパートの方をお願いしていて、児童室2人、一般図書・雑誌は3人の体制をとっていました。

2週間の実習の中で、私は図書や視聴覚資料の登録や装備、購入や発注の仕方、予約本やリクエスト、レファレンスの処理、カウンター業務などさまざまなことをさせていただきました。また3ヶ月検診のときに行うブックスタートや職員やボランティアの方々が行う読み聞かせなどにも参加させていただき、大変楽しく勉強になりました。

その中で特に印象に残った仕事が、図書やCDなどの装備でした。装備とは、図書が傷むのを防ぐためにビニールのカバーを貼り付けたり、貸し出しできるようにバーコードや請求記号などを付けたり、また分館用の図書には貸し出しカードを裏表紙の後ろにつけたりする作業です。図書館流通センター（TRC）から図書を購入している

さえすればいい状態で納品されるのですが、利用者からのリクエストや自分たちで選んで発注したもの、またTRC以外からの購入や寄贈された図書などは自分たちで装備しなくてはならないので量は少なくありませんでした。とてもとても地味で黙々とこなす作業でしたが、カバーをつけるときは、失敗は許されないので集中して一気につけてしまいます。きれいにカバーがついたときは、やり遂げた感じがしてとても好きな作業でした。

また、最近新発田市と合併した地域に児童書を持って行って、貸し出しや読み聞かせなどもしました。私も1冊、絵本を読ませていただきました。授業では何回か機会がありましたが大学生相手に、実際に子どもたちの前で読み聞かせをするのは初めての経験だったので、とても緊張しました。集まった子どもたちが3人しかいなかった拍子抜けしたところもあったのですが、なんとか無事に読み聞かせすることができ、ほっとしました。ただ今回は同い年の子3人だったので良かったのですが、大勢

集まったら年齢や性別もばらばらになるので、絵本や図書選びは難しいなと思いました。

さらにカウンター業務やレファレンス、図書の購入などの図書館の仕事を通して、あらゆる図書についての情報を知っていなくてはならないということも痛感しました。さまざまな利用者がいるので要求もさまざまで、人気の著者の最新本や話題の本、夏休みだったので自由研究や卒業論文のための専門的な本、または漠然とした情報しかない中から図書を探さなくてはいけなかったりなど、あらゆる問い合わせがありました。その要求に素早く対応していくため、そして新たに購入する図書を選ぶためにもやはり、さまざまな図書や雑誌、資料などの情報に敏感でなければならないと強く感じました。

2週間と短い間ではありましたが、大変充実した図書館実習でした。授業で勉強しているだけでは分からない、実際に業務を体験して初めて実感することたくさんあり、貴重な体験でした。



留学体験記

文学部日本語日本文学科日本語学専攻 4年 渡部 明奈

まったくもって“外国”に関係のない日本語日本文学科日本語学専攻の私が、大学の交換留学プログラムを利用し、1年間のドイツ留学を体験した。

ここドイツはヨーロッパのほぼ中心に位置する。そのなかでも旧東に位置するハレという都市で学生生活を送った。話される言葉はもちろんドイツ語のみである。街をゆけば必ず伝統的な建物に遭遇した。日本ではテレビの中のものではしかなかったおとぎ話の世界を、あちらこちらで目にする不思議さはすぐに感動に変わった。長い歴史が肌で感じられるとともに、鉄道を始めとする先進的な技術と、保険や福祉などを通し成熟した社会を実感できる国でもあった。

英語圏に比べ、審査も優しく、比較的楽に留学する権利を得ることが出来る。しかし、その分現地で授業を受けるための語学力が足りず苦戦した。授業中は先生の発する言葉を書き取るだけで精一杯で、学生寮での復習で初めて授業内容がわかるといった日もあった。大学生として生活してみなければ分からない様々なことを、楽しいこと、辛いことを含め、身をもって経験した1年だった。

日本で司書課程を受講し、テーマ学習の中でも図書館学のゼミに所属していたことから、ドイツでも図書館について知りたいたと考え、個人で多くの図書館を訪れた。見学などを通し、多くの図書館に触れていく過程で感じたことを少し紹介したい。

ヨーロッパの図書館はまるで美術館や博物館のようになっているものが多くある。ハレも例外ではなく、市内には近代教育の確立者であるA.H.フランケによる18世紀初頭から収集された資料からなるフランケ財団の図書室と、教会に隣接していて15世紀から18世紀の文化的資料を集めたマリーエン図書館というすばらしい図書館があった。

あまりに古く貴重なため、本を直に手に取ることは出来ないが、天井まで続く現在では考えられないほど高く古い書架に囲まれた薄暗い部屋を見学するだけでも感動できる。貴重な蔵書が多く、日本からそれらの資料を目当てにやっ

てきている研究者の方もいた。専門的な蔵書構成でありながらも、多くの展示や講座により、研究職の人へのみアピールするのではなく、一般の利用者への配慮が多く見られた。

特に驚いたの



は、深夜2時まで市内のほぼすべての施設が無料開放されるイベントで、フランケ財団の建物がレーザー光線による光のイルミネーションの渦だったことだ。もちろん図書室内も何故かレーザー光線が四方八方回っていた。市をあげてのお祭り騒ぎに、図書館もこんな形で参加していることがとても新鮮に感じた。

大学図書館も独特で、3つの主要な図書館の他に、市内数十ヶ所に校舎が点在しているハレでは、それぞれの専門分野の図書館も同じく点在しており、学生が図書館を使いやすい状況になっている。

ハレ以外にも旅行先でたくさんの図書館を見学する機会を得、日本と比べて図書館の位置づけの高さを改めて感じた。市民に図書館という存在が自然に受け入れられ、足を運ぶ環境が整っているのは歴史が果たした役割が大きいのだろう。ひとりひとりの意識の高さが図書館の質とともに価値をも上げている。

ふらりと図書館に立ち寄ることが、素敵な旅の思い出になることもヨーロッパならではの楽しみだろうか。そんな国で1年間過ごせたことは私にとってとても刺激的なものになった。



学芸員課程



インドシナの現代史をめぐるアジアエクスポージャー

経済学部 兼任講師 御園生 純

近年、国際支援活動を行うNPO（非営利団体）による海外へのスタディツアーやフィールドワーク、フィールドスタディ、あるいはインターンシップなどの体験学習が多く行われるようになってきています。

この動きの源には、学校教育における「総合的な学習の時間」の新設と同様に、学生が教室の外に跳躍し、現実の力強さと、観念的な知識や既成メディアからの情報を主体的・批判的に問い直すことを目指すような、新しい教育や学習のあり方を探ろうとする考え方があります。

このような潮流の中、筆者はここ数年来、全国の大学生を中心とした東南アジア諸国へのツアーを8月と2月の年2回実施しています。またこのツアーは従来の「スタディ」ツアーに換わる新しい体験学習の理論である「エクスポージャ」ツアーを導入して実施しているものです。

そもそもエクスポージャには、「露出する」「光に当てる」「さらけ出す」といった意味があります。これはスケジュールやカリキュラム、答えが事前に用意されたスタディのような傍観者のではなく、より自己投入的であり、参加者が個人としてありのままの現実を感じ取ることを第一に考える体験活動のことを指します。このエクスポージャツアーではそれらを実現するために、事前学習は一切なし、スケジュールや活動内容もできる限り参加者同士の話し合いの中で決定していく、という一人ひとりの主体性を重視した運営を心がけています。

エクスポージャプログラムは、今までのボランティア・国際支援活動の多くが現地の代弁者たるボラ

ンティアリーダーの言葉を信じ、その人に任せ、異を唱えないという「代行主義」に代わろうとするものです。これまで自分がもってきた殻（パラダイム：規範意識）をできる限り脱ぎ捨て、出会った人々との関係をそこから洗い直し、さらに自分たちを包み込んでいる構造的・歴史的な問題を理解克服していくための「共同作業」のことをさします。つまり、友人同士で参加しても、グループで活動しても、あくまで基本はまず個人におかれる。そんな一人一人が主役となり、まず自分が何を感じ、それを他者にどのように伝え共有していくのかを大切にする学習活動です。善悪ではなく、「なぜ、こうなっているんだろう？」というありのままを見つけるエクスポージャ的な視点こそ、これからのボランティア体験活動において重要な理念となると考えています。

このような理念を元に、前回のツアーでは、ベトナムとカンボジア両国を訪問しました。

訪問地では現地でのボランティアや支援活動に従事する地域の人々やストリートチルドレンの支援施設・スラム街のチャリティスクールの子供たちとの交流など、従来のスタディツアーとは異なる、自己投入的な体験活動を堪能することができました。

なによりも「素顔のアジアを感じ」ることを通じて、ボランティア活動や市民レベルによる国際支援活動のあり方を問い直そうとするこのツアーの目的は果たせたのではないかと、と思っています。

今回のツアーで訪

れたカンボジアの首都プノンペンには、インドシナ諸国の都市の中でも、最もフランス統治時代の雰囲気が残されています。かつて「東洋のパリ」と呼ばれた街並みは、フランス風の大通りと、街路樹のタマリンドの緑やプルメリアの花が映し出す南国特有のコントラストが不思議に調和している街です。

他方でこの美しい街には、1975年4月から1979年1月までの約4年間この国を統治したクメールルージュ、いわゆる「ポルポト政権」による大量虐殺の生々しい傷跡がまだ残っています。

極端な共産主義政策を実行したポルポト政権により、一説にはこの4年間に200万人以上の民衆が殺されたといわれています。なかでも教師・僧侶・外国語ができる者などの都市の知識人を抹殺することで、伝統的文化を破壊し原理的な共産主義を断行しようとしたのです。

そのような虐殺の舞台となった代表的な場所が、プノンペン市中心部にあるツールスレン虐殺博物館（Tuol Sleng Genocide Museum）と、市郊外のチェーンアエク村にあるキリングフィールドです。

かつて高校だった建物を改造して作ったツールスレン虐殺博物館は、ポルポト統治下時代、強制収



キリングフィールド正門



ツールスレン博物館外観

容所として利用され、実に2万人以上の市民が処刑された跡です。教室だった部屋には、ブロックを積んで幅1メートル奥行き二メートルに満たない仕切りを作り、独房として利用していました。各房には未だに足かせが残っています。さらに展示室のいたるところにこの収容所で処刑された人々の顔写真が無数に展示されています。

チェーンアエク村にある通称「キリングフィールド」は、ツールスレンをはじめとする強制収容所から囚人が送られた「処刑場跡」です。いまでは公園として保存されていますが、足元の芝生の陰には未だに人骨を数多く見ることができます。1988年には公園の中央に記念塔が建てられ、中に殺されて埋められた人達の骨が安置されています。ナチスドイツのホロコーストに勝るとも云われるポルポトの大虐殺は、現在のカンボジアの社会構造にも大きな影響を与えています。70年代後半から80年初頭にかけての出生率が極端に低いことは、現在でも社会の中軸を担う20歳代後半の年齢層が極端に低いといういびつな人口構造の原因にもなっています。

現在のカンボジア政府はこういった過去の証言施設を閉鎖しよう

としているといわれています。前述のキリングフィールドも、今年はじめに日系企業にリースされ、大きく様変わりしようとしています。博物館や資料館だけでなく、プノンペンという町全体が20世紀現代史の様々な矛盾、そして

東南アジア諸国がおかれてきた植民地支配やその後の西側諸国の代理紛争という歴史の証人であるといえます。街全体がこのような悲劇の舞台としての歴史的な資料価値を持つ風景を、単に悲劇的な風景として捉えるのではなく、近現代を形成した人類全体に対する過去への贖罪と未来への希望の架け橋として残していくことが求められているのではないのでしょうか。

ほんの30年弱の昔、この国で繰り広げられた悲劇の歴史を物語るこれらの史跡や資料は、単に歴史的証拠（エビデンス）としての意義だけでなく、植民地とは何か、そして当時の日本とポルポト政権はどのような関係にあったのか、なぜ「インドシナ難民」と呼ばれる人々が日本にいるのか、難民を生み出した政治構造の真相はどこにあったのか、という当事者としての私たち日本人自身に対しての問い直しをしなければならない、ともいえます。

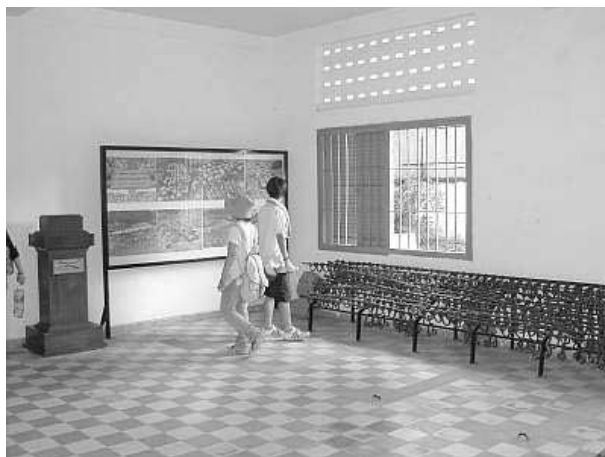
2004年にはポルポト政権時代の大量虐殺を裁く国

際法廷が設置されることについてカンボジア政府と国連が合意文書を取り交わしました。

しかしながら虐殺の関係者を国連という大国の思案の渦巻く場できかに裁いても、大虐殺の犠牲者たちは蘇りません。いま私たちが考えなければならないのは歴史に対する責任の論理であって、その論理は、加害者の罪を計量し、これに報いることで収斂する司法の論理ではないはずです。死者の願いと生者の責任は、当時の為政者に復讐することではなく、あの大虐殺に至った歴史の様々な要因からなる複合構造を、すべての人が自らの課題として客観的に理解し、未来の歴史に奉仕することではないでしょうか。

そういった考え方こそエキスポージャツアーの醍醐味である事を「構造的に理解する」ことにつながるのではないかと考えています。

このエキスポージャツアーは大学生に限らず、誰でも気軽に参加できることを目指して運営されているものです。ぜひ興味のある方は筆者のホームページ(<http://misonou.com>)のツアー報告をご覧ください、多くの方々が参加されることを願っています。



展示室内部

卒業生から

日本民藝館勤務 春日美香子（平成17年 文学部人文学科卒業）

私は昨年度実習をさせていただいたご縁で現在、東京目黒区駒場にある日本民藝館で働いています。

日本民藝館は昭和11（1936）年に開館しました。“民藝”とは民衆的工芸という意味の言葉で、民藝運動の創始者であり、日本民藝館の初代館長である柳宗悦によって創出されました。館には柳宗悦の眼によって全国から集められた民衆工芸品約一万七千点が収蔵されています。

館の建物は和風様式の建築で、ほとんどの部分が開館当時のまま残されています。歩くときしむ板張りの床や、窓に組まれた障子戸から差すやわらかい光は、“美術館”というより“田舎のおばあちゃんち”のようなあたたかい雰囲気をもっていて、とても居心地がいい美術館です。私は今年の4月からこの美術館の売店で仕事をしています。

さて、このような場をいただいて学芸員の資格取得を目指す皆さんにお話ししたいと思ったのは、学芸員を含む民藝館で働く私たちがどのように仕事をしているかということです。

皆さんは“雑芸員”という言葉をご存知でしょうか？この言葉は、資格課程の授業で教授が学芸員の仕事について説明するときに使っていた言葉です。その意味は字面の通りで、学芸員は教科書にあるような「資料の収集・保存・研究」といった“学術”に関する仕事をするだけではなく、様々な分野におよぶ“雑多”な仕事をもこなす雑芸員でもあるというお話でした。そして現在、実際に美術館につとめて学芸員の仕事を間近にみる機会を得て、彼らがまさにその言葉通り雑芸員として仕事をしているということを強く実感しています。

日本民藝館は比較的小規模な美術館です。館につとめている人はパートタイムで出勤する受付や監視などの人も含めて20名程度で、そのうち職員として常に出勤する

のは10名程です。その中にはいわゆる学芸員としての専門知識を持った人が数名います。彼らは学芸員としての主要な任務である展示計画をたてたり、蔵品の管理や研究活動、ギャラリートークや図録制作などの仕事もしていますが、雑芸員としても働く彼らの仕事はそれだけではありません。館を運営していくための経理、メディア等への広報活動、ポスターのデザイン、案内状の発送、受付・監視の交代、館内の掃除も毎日欠かさず行います。彼らは一人一役のみを単純にこなすというのではなく、一人二役、時にはそれ以上の役割をこなすことで日々民藝館にもたらされる大量かつ雑多な仕事に対応しているのです。

それでは学芸員以外の人についてはどうでしょうか？学芸員以外では与えられた仕事をするだけのアルバイト店員みたいなものでしょうか？それはちがいます。彼らもまた一人でいくつもの役をこなす雑芸員として仕事をしているのです。例えばそれは展示替のときによく現れます。

民藝館の展示替は一週間という長い期間をかけて行われます。それは「陳列はそれ自身一つの技藝であり創作である」という柳宗悦の言葉に今も忠実だからです。そのため、民藝館の展示替は単に展示スペースの大きさと物の大きさとで決められるような単純な作業ではありません。物とそれと隣りあう物との相性を見て、さらにその隣、ケース全体、部屋全体...と最終的には館全体にその統一がいきわたるよう多くの時間と手間をかけて展示が完成させられます。よって、展示が完成するまでは倉庫から物を出しては並べ、出しては並べの繰り返しです。この作業はとても学芸員だけでできるものではありません。普段は受付や監視の仕事をしているパートの人も学芸員以外の職員も全員でこの展示替の作業にあたります。このよう

に直接物に触れるということは物を理解するのにこの上ない方法です。さらに、パートの人の多くはもう10年以上も民藝館で働いているのでこの展示替の勝手をよく理解し学芸員としてもとても頼れる存在となっています。

つまり、日本民藝館で働く人全員が雑芸員であると思うのです。館にもたらされる本当にたくさんの仕事の数々。その中には学術的な仕事もそうでない仕事もあります。しかし、それがどんな仕事でも自分の手が空いているならば手伝い、お互い補い合いながら全員でこなし民藝館を機能させていく。単に人が少ないからといってしまってもできますが、このように職員が有機的なつながりをもって仕事ができるというのは、規模の大きい組織にはまねのできないすばらしい仕事の仕方であると思います。

最後になりますが、私が学芸員資格課程をとって本当によかったと思うのは自分自身の幅が広がったことです。私は学生時代社会学を専攻していましたが、3年生になり学芸員課程をとったことで、そのままとどまっていたならきっと出会うことができなかった学問や友人に出会うことができました。それは自分の進路を考える際にとてもいい力になってくれたと思います。学芸員の資格取得を目指す皆さん、学芸員になるというのはなかなか厳しいかもしれませんが、資格のためだけなどと思わず自分の幅を広げるというプラスの考えをもって授業や実習に一生懸命取り組みてください。



博物館実習を終えて

実習館：高麗博物館 文学研究科歴史学専攻修士課程 宮川 英一

高麗博物館。新宿の職安通り沿いのビルの一室にある、この博物館のことを皆さんは知っているだろうか？この博物館は日本で数少ない朝鮮半島と日本との関係史（または交流史。以下、「日朝交流史」と略す）を主に取り扱っている。朝鮮半島は歴史的に日本と関係が深い場所である。前近代、近代、現代を通じて様々な歴史的事象が韓国－朝鮮と日本との間で起こった。そこには現在でも、決して等閑視し得ない問題が多く含まれている。しかしながら、今の日本には「日朝交流史」を取り扱った博物館は少なく、管見ながら、関東圏で常設展示のテーマとして取り扱っている博物館はここしかない。非常に貴重な場所と指摘しうるだろう。

2005年の夏に、私はこの博物館で博物館実習をさせてもらった。この博物館を実習先に選択した理由は、私の専攻（朝鮮近現代史）に関わるものだったからである。



掛け軸。安重根、獄中の書のレプリカ

普段は歴史文書を通じて歴史を研究しているが、この博物館では、実際にモノ資料を手にとって勉強をすることができた。この体験ができるのが、博物館実習の醍醐味である。



学芸員の岡さんと関口さん

それではこのような体験ができる実習は、どのような内容であったのだろうか？今回の私の行った実習は、高麗博物館の所蔵資料の台帳を作成することであった。では、ここでいう所蔵資料台帳とは、どのようなものであろうか？イメージをいえば、図書館のカード目録のようなものである。一方で図書館のカード目録は書籍について、その形態や所蔵場所などの情報を記載しているが、他方で博物館の台帳は所蔵している資料についてそれを載せている。この台帳によって、博物館では所蔵品の管理をしている。博物館で日常的に行われる作業のひとつである。以下では実習内容について、三つの段階に分けて述べていきたい。

第一の段階の作業は台帳のフォーマットを作成することから始まった。何をするにも博物館で作業することは、初めてである。台帳とは何か。どのような台帳が、他

の博物館では使われているのか。台帳に載せるべき情報は、一体何であるのか。また、所蔵品の調査はどのような手順でやるべきで、何を準備する必要があるのか。この課題に応えるために、私は文献

を参照し、自分で台帳のフォーマットを作成した。調査の期間や範囲についても担当の方を相談して、決定した。

第二段階の作業では、実際に調査をして、台帳に記入していった。扱った資料は、素焼きの美術品や、掛け軸、人形、民族衣装、パネル資料など多岐にわたった。それら資料を一

つずつ調査して、デジカメで撮影した。そして、最後に調査結果を台帳へ記載していった。第三段階では、以上の過程を通じて得られた台帳について報告を行った。残念ながら諸般の事情により、完全な台帳はできなかったが、所蔵品の大きな全体像を把握することに資するものは、作成できたと考えている。

ここで行った上述の実習は、与えられた課題をこなすことではなく、自分で課題を設定し、それに対応していくものであった。知識も技術もなく、非常に大変な作業であり、結果は不完全なものとなってしまった。しかしながら、振り返ってみればなかなかできない体験だったと考えられる。最後になったが、高麗博物館の館員の方は、海のものと山のものと分らない私に、ここまで自由に実習をさせて下さった。ここに謝辞を記したい。

博物館実習を終えて

実習館：浜田市世界こども美術館 文学部日本語日本文学科日本文学文化専攻 3年 漆松 久美子

島根県にある「浜田市世界こども美術館」へ実習に行きました。その館での今年の実習生は自分ひとりだけだったので、気楽でした。

学校での授業で、学芸員は雑芸員だ、と言う人もいと教えられていましたが、実習館でも同じことを言われました。そして、今回の実習でそのことを表面的ではありましたが、実感しました。

この館はこども美術館という名前の通り、こどもを対象とした参加型の企画が充実している館です。通常の企画として、毎週末に来館者参加型の創作活動の場が開かれているのですが、今回の実習期間が夏休みと重なっていた為、週末だけでなく平日も創作活動の場が開かれていました。その他にも通常に加えて多くの企画がありました。特に、10日間の実習の9日目には「こども美術館まつり2005」というイベントが開催されることになっていたため、実習の後半はその準備の時間がほとんどでした。実習の前半はお盆と重なっていたため、多くの来館者が創作活動に参加していました。実習でその創作活動の補助作業に参加しました。それは説明を受けて思っていたよりも難しいことでした。実際の作業が難しいわけではなく、参加者との係わり方が難しいと思いました。そう感じたのは参加者のほと

んどが小学生以下のこどもで、保護者と一緒に参加していたからです。小さなこどもを相手にするというのは、保護者も相手にするということなのだと思います。創作活動において、わからない、できない、ということも無視するわけにはいかないけれど、手を貸したらその保護者に、こどもの自由にできないと文句をつけられることもあるそうで、どこまで手を貸していいのかというのが難しいところでした。保護者によって、手を貸したら文句を言う人、こどものやることにいちいち口を出す人、何も言わずに見ている人、自分の方が創作に夢中になっている人、いろいろなタイプがあり、こういう活動をしている館では普通に来館者に接するのとは違って、参加者との接し方を考えなければならないのだと思いました。

そのほかは、展示室の監視業務を少し体験させてもらい、あとはまつりの準備をしました。毎年実習生に割り当てられているらしい作業が、まつりの各コーナーで使う看板作りでした。今年の実習生は1人だったため、1人でかいていました。好きなようにかいてい

いと言われたので好きなようにかきましたが、ペンキに塗れつつ延々看板をかいて、できてから数えたら11枚かいていました。他にも、近くの小学校まで TENT を借りに行ったり、組み立てたり



するという力仕事や、車の荷台で借り物の荷物が倒れたりしないように見張っていたりと、思ってもみなかった作業をしました。思ってもみなかったといっても、これらのことは指示が出てそれに従ってやっていただけだったので何をしたらいいのかわからなくて困るということにはなりませんでした。

10日間の実習のなかで、なにをしたらいいかわからなくなったのは、まつり当日でした。当日は、複数の創作活動のコーナーがありましたが、特に何をしろという指示が出るわけでもなく、様子を見て適当に動いておくように言われました。まつりの創作活動のコーナーは普段の創作活動とは違って、外部からその創作を教えてくれる人を招いていたので、教える人と参加者だけでその場が成り立っているように見えました。なので、できることを自分で見つけるのがとても難しかったです。状況を見て考えて動くというのは、難しいものなのだと思います。

今回の実習で、体験したことは表面的なことにはすぎなかったのかもしれませんが、学芸員は本当にいろいろな種類の作業をこなしているのだと知りました。

実際に体験しなければわからないこともあり、実習の前後で確実に学芸員に対する印象が変わった貴重な体験でした。



データ編



平成16年度 資格課程履修者数

データ編

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
教 職	経 済	経 済	47	20	54	15	32	4	26	9	159	48	207
		国 際 経 済	16	—	12	—	20	—	5	—	53	0	53
	法	法 律	49	17	62	11	42	8	31	12	184	48	232
		経 営	21	—	32	—	24	—	17	—	94	0	94
	商	情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		商 業	25	10	36	10	43	2	35	5	139	27	166
	文	会 計	5	—	4	—	6	—	1	—	16	0	16
		国 文	—	—	—	—	—	—	3	—	3	0	3
		英 米 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人 文	74	—	53	—	33	—	30	—	190	0	190
		心 理	2	—	5	—	2	—	2	—	11	0	11
		日 本 語 日 本 文	64	—	61	—	40	—	63	—	228	0	228
職	英語英米文	英語英米文	29	—	38	—	41	—	28	—	136	0	136
		英語英米文	27	—	34	—	26	—	19	—	106	0	106
	大 学	ネットワーク情報	13	1	—	—	—	—	—	—	13	1	14
		院	—	39	—	—	—	—	—	—	0	39	39
	科目等履修生	科目等履修生	—	39	—	—	—	—	—	—	0	39	39
		小 計	372	87	391	36	309	14	260	26	1,332	163	1,495
	合 計	合 計	459		427		323		286		1,495		1,495
		合 計	459		427		323		286		1,495		1,495

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 書	経 済	経 済	4	4	9	2	2	2	6	1	21	9	30
		国 際 経 済	—	—	1	—	—	—	3	—	4	0	4
	法	法 律	15	12	10	3	7	4	4	2	36	21	57
		経 営	6	—	11	—	—	—	4	—	21	0	21
	商	情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		商 業	1	1	5	2	3	2	2	1	11	6	17
	文	会 計	1	—	1	—	1	—	—	—	3	0	3
		国 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		英 米 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人 文	15	—	16	—	19	—	10	—	60	0	60
		心 理	5	—	1	—	1	—	—	—	7	0	7
		日 本 語 日 本 文	41	—	35	—	22	—	32	—	130	0	130
教 諭	英語英米文	英語英米文	3	—	5	—	4	—	3	—	15	0	15
		英語英米文	13	—	6	—	4	—	3	—	26	0	26
	大 学	ネットワーク情報	2	—	—	—	—	—	—	—	2	0	2
		院	—	9	—	—	—	—	—	—	0	9	9
	科目等履修生	科目等履修生	—	9	—	—	—	—	—	—	0	9	9
		小 計	106	26	100	7	63	8	67	4	336	45	381
	合 計	合 計	132		107		71		71		381		381
		合 計	132		107		71		71		381		381

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 書	経 済	経 済	2	—	—	—	—	—	6	1	8	1	9
		国 際 経 済	1	—	1	—	1	—	—	—	3	0	3
	法	法 律	2	—	1	1	2	1	4	6	9	8	17
		経 営	—	—	3	—	1	—	1	—	5	0	5
	商	情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		商 業	—	—	1	—	6	—	8	—	15	0	15
	文	会 計	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		国 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		英 米 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人 文	8	—	3	—	2	—	10	—	23	0	23
		心 理	—	—	1	—	1	—	1	—	3	0	3
		日 本 語 日 本 文	9	—	14	—	13	—	15	—	51	0	51
教 諭	英語英米文	英語英米文	1	—	2	—	—	—	2	—	5	0	5
		英語英米文	2	—	2	—	6	—	5	—	15	0	15
	大 学	ネットワーク情報	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		院	—	5	—	—	—	—	—	—	0	5	5
	科目等履修生	科目等履修生	—	5	—	—	—	—	—	—	0	5	5
		小 計	25	5	28	1	32	1	52	7	137	14	151
	合 計	合 計	30		29		33		59		151		151
		合 計	30		29		33		59		151		151

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
学 芸 員	経 済	経 済	3	—	3	1	4	2	5	2	15	5	20
		国 際 経 済	1	—	2	—	—	—	2	—	5	0	5
	法	法 律	2	—	1	4	7	5	2	—	12	9	21
		経 営	5	—	4	—	1	—	4	—	14	0	14
	商	情 報 管 理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		商 業	—	—	1	—	1	1	3	—	5	1	6
	文	会 計	—	—	—	—	1	—	1	—	2	0	2
		国 文	—	—	—	—	—	—	1	—	1	0	1
		英 米 文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人 文	32	—	40	—	29	—	42	—	143	0	143
		心 理	—	—	—	—	—	—	2	—	2	0	2
		日 本 語 日 本 文	6	—	9	—	10	—	19	—	44	0	44
員	英語英米文	英語英米文	2	—	7	—	4	—	5	—	18	0	18
		英語英米文	—	—	2	—	1	—	2	—	5	0	5
	大 学	ネットワーク情報	—	—	—	—	—	—	—	—	8	0	8
		院	8	—	—	—	—	—	—	—	0	6	6
	科目等履修生	科目等履修生	—	6	—	—	—	—	—	—	0	6	6
		小 計	59	6	69	5	58	8	88	2	274	21	295
	合 計	合 計	65		74		66		90		295		295
		合 計	65		74		66		90		295		295

平成16年度 教員免許状取得状況一覧

データ編

Pana & Pana

	免許種類	中学一種					高校一種					中学専修					高校専修					合計				
		社会	国語	英語	数学	小計	地理歴史	公民	情報	商業	国語	書道	英語	数学	小計	社会	国語	英語	小計	地理歴史	公民		商業	国語	英語	小計
生田	経済学科	18				18	21	21		0					42				—						—	60
	授与件数	17				17	18	19		0					37				—						—	54
	国際経済学科	2				2	2	3		0					5				—						—	7
	授与件数	1				1	2	2		0					4				—						—	5
	経営学科					—			10	11					21				—						—	21
	授与件数					—			8	8					16				—						—	16
	情報管理学科					—				0					0				—						—	0
	授与件数					—				0					0				—						—	0
	商業学科	9				9	12	13	1	13					39				—						—	48
	申請件数	8				8	10	10	1	8					29				—						—	37
	授与件数					—				1					1				—						—	1
	申請件数					—				1					1				—						—	1
	授与件数					2					3	0			3				—						—	5
	国文学科					1					2	0			2				—						—	3
授与件数					0									0				—						—	0	
申請件数					0									0				—						—	0	
授与件数					0									0				—						—	0	
申請件数					0									0				—						—	0	
授与件数					0									0				—						—	0	
申請件数					0									0				—						—	0	
授与件数					32					58	12			70				—						—	102	
申請件数					27					52	11			63				—						—	90	
授与件数					17									28				—						—	45	
申請件数					17									25				—						—	42	
授与件数																		—						—	23	
申請件数					3				15				5	20				—						—	19	
授与件数					3				12				4	16				—						—	0	
申請件数					—									—				0		0				0	0	
授与件数					—									—				0		0				0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	
授与件数					—									—				—						0	0	
申請件数					—									—				—						0	0	

平成16年度 教育実習先一覧（生田）

データ編

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	北海道苫小牧総合経済高等学校	情報	経営	経営	
	北海道	北海道釧路商業高等学校	商業	商	商業	
	北海道	北海道札幌開成高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	北海道	道愛女子高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	北海道	北松山町立北松山中学校	社会	経済	経済	
	北海道	鶴居村立鶴居中学校	社会	商	商業	
	岩手県	岩手県立宮古商業高等学校	情報	経営	経営	
	岩手県	専修大学北上高等学校	商業	経営	経営	
	岩手県	専修大学北上高等学校	商業	商	商業	
	岩手県	専修大学北上高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	岩手県	衣川村立衣川中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	岩手県	藤沢町立黄海中学校	社会	経済	経済	
	岩手県	水沢市立東水沢中学校	社会	商	商業	
	宮城県	宮城県古川女子高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	秋田県	秋田県立横手高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	秋田県	能代市立能代商業高等学校	商業	経営	経営	
	秋田県	横手市立金沢中学校	社会	商	商業	
関東	福島県	福島県立双葉高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	福島県	猪苗代町立猪苗代中学校	社会	文	人文	哲学者人間学
	茨城県	茨城県立古河第三高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	茨城県	茨城県立鉾田第一高等学校	地理歴史	商	商業	
	茨城県	茨城県立緑岡高等学校	公民	文学	哲学者人間学	
	茨城県	瓜連町立瓜連中学校	英語	文	英語・英米文	
	茨城県	下館市立下館中学校	社会	文学	社会学	
	茨城県	八郷町立南中学校	英語	文	英語・英米文	
	茨城県	龍ヶ崎市長立山中学校	社会	経済	経済	
	栃木県	佐野市立赤見中学校	社会	文	人文	歴史学
	群馬県	高崎市立高崎経済大学附属高等学校	公民	商	商業	
	群馬県	群馬県立伊勢崎東高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	群馬県	群馬県立中央高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	群馬県	群馬県立中央高等学校	情報or数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	群馬県	群馬県立嬬恋高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	経営	経営	
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	商	商業	
	群馬県	群馬県立前橋東高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	群馬県	群馬県立沼田女子高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	群馬県	群馬県立沼田女子高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
関東	群馬県	東京農業大学第二高等学校	地理歴史	経済	経済	
	群馬県	赤城村立北中学校	英語	文	英語・英米文	
	群馬県	太田市立城西中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	群馬県	倉渕村立倉渕中学校	社会	経済	経済	
	千葉県	千葉県立千葉南高等学校	公民	経済	国際経済	
	千葉県	銚子市立銚子西高等学校	地理歴史	商	商業	
	千葉県	国府台女子学院中・高等部	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	経済	経済	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	経済	経済	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	英語	文	英語・英米文	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	文	心理	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	情報	経営	経営	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	飯岡町立飯岡中学校	社会	商	商業	
	千葉県	市川市立塩浜中学校	社会	経済	経済	
	千葉県	市川市立東国分中学校	英語	文	英語・英米文	
	千葉県	木更津市立鎌足中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	千葉県	銚子市立銚子西高等学校	地理歴史・公民	経済	国際経済	
	埼玉県	埼玉県立朝霞高等学校	情報	経営	経営	
	埼玉県	埼玉県立小鹿野高等学校	情報	経営	経営	
	埼玉県	埼玉県立久喜北陽高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	埼玉県	埼玉県立熊谷商業高等学校	商業	経営	経営	
	埼玉県	埼玉県立熊谷西高等学校	英語	文	英語・英米文	
	埼玉県	埼玉県立新座総合技術高等学校	商業	商	商業	
	埼玉県	さいたま市立浦和南高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	埼玉県	春日部共栄高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	埼玉県	川越東高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	埼玉県	本庄東高等学校	公民	商	商業	
	埼玉県	大利根町立大利根中学校	英語	文	英語・英米文	
	埼玉県	小川町立東中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	埼玉県	桶川市立桶川中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	埼玉県	狭山市立入間野中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	新座市立新座中学校	英語	文	英語・英米文	
	埼玉県	本庄市立本庄南中学校	社会	経済	経済	
	埼玉県	八潮市立八條中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	東京都	東京都立大学附属高等学校	国語・書道	文	日本語・文	日本文学文化
	東京都	東京都立小石川高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	東京都	東京都立小平高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
関東	東京都	東京都立桜町高等学校	公民	文	人文	哲学者人間学
	東京都	東京都立成瀬高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	東京都立東大和南高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	東京都	東京都立深川高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	東京都立松が谷高等学校	地理歴史	文学	歴史学	
	東京都	東京都立南平高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	桜華学院高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	東京都	桜美林高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	東京都	佼成学園高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	東京都	駒沢学園女子高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	人文	社会学
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
関東	東京都	専修大学附属高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	東京家政学院中・高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	東京都	東京経営短大村田女子高等学校	商業	商	商業	
	東京都	東京農業大学第一高等学校	情報	経営	経営	
	東京都	文京学院大学女子高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	東京都	文教大学付属中・高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	日白学園高等学校	情報	経営	経営	
	東京都	安田学園高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	東京都	荒川区立第九中学校	社会	文	人文	環境地理学
	東京都	板橋区立板橋第三中学校	社会	経済	国際経済	
	東京都	大田区立南六郷中学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	東京都	世田谷区立桜木中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立麻生高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校	公民	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校	情報	経営	経営	

Pass & Pass

平成16年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	公民	文学	社会学	
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	地理歴史・公民	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	地理歴史	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立荏田高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	神奈川県立追浜高等学校	公民	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立神奈川総合高等学校	国語	文	日本語・日本語学	
	神奈川県	神奈川県立川崎北高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立岸根高等学校	公民	文	心理	
	神奈川県	神奈川県立港北高等学校	情報	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立港北高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立相模大野高等学校	公民	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立座間高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立七里ガ浜高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立七里ガ浜高等学校	国語	文	日本語・日本語学	
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	国語	文	日本語・日本語学	
	神奈川県	神奈川県立新城高等学校	国語	文	日本語・日本語学	
	神奈川県	神奈川県立住吉高等学校	情報	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	国語	文	日本語・日本語学	
	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	神奈川県立多摩高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	地理歴史	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立百合丘高等学校	情報	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立百合丘高等学校	公民	文	人文	哲学生人間学
	神奈川県	神奈川県立横浜平沼高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立横浜南陵高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立みなと総合高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	厚木市立小鮎中学校	社会	文	人文	歴史学
	神奈川県	小田原市立城南中学校	社会	文	人文	社会学
	神奈川県	川崎市立金程中学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	川崎市立田島中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	川崎市立東橋中学校	国語	文	日本語・日本語学	
	神奈川県	相模原市立弥栄中学校	社会	文	人文	哲学生人間学
	神奈川県	相模原市立由野台中学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	茅ヶ崎市立松浪中学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	藤沢市立湖南台中学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	藤沢市立明治中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	山北町立山北中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	横須賀市立追浜中学校	社会	文	人文	歴史学
	神奈川県	横浜市立岡津中学校	国語	文	日本語・日本語学	
	神奈川県	横浜市立日限山中学校	社会	経済	経済	
	山梨県	山梨県立甲府城西高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	山梨県	山梨県立甲府東高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	山梨県	山梨県立富士河口湖高等学校	英語	文	英語・英米文	
	山梨県	市川大門町立市川中学校	社会	文	人文	歴史学
	山梨県	忍野村立忍野中学校	社会	経済	経済	
	山梨県	山梨学院	社会	文	人文	社会学
北陸	新潟県	新潟県立三条高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	新潟県	新潟県立十日町総合高等学校	情報	経営	経営	
	新潟県	新潟県立新津高等学校	地理歴史	商	商業	
	富山県	富山県立新湊高等学校	情報	経営	経営	
	富山県	富山県立高岡南高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	富山県	富山県立平高等学校	英語	文	英語・英米文	
	富山県	富山県立福野高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	富山県	高岡市立南星中学校	社会	経済	経済	
	福井県	福井県立丹生高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	福井県	北陸高等学校	地理歴史	文	人文	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
信越	新潟県	新潟県立八海高等学校	公民	経済	経済	
	新潟県	加茂市立葵中学校	地理歴史	経済	経済	
	長野県	長野県篠ノ井高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	長野県	長野県須坂商業高等学校	商業	経済	会計	
	長野県	長野県松本県ヶ丘高等学校	国語	文	日本語・日本語学	
	長野県	長野県下高井農林高等学校	情報	経営	経営	
東海	長野県	山ノ内町立山ノ内中学校	英語	文	英語・英米文	
	岐阜県	岐阜県立羽島北高等学校	公民	経済	経済	
	岐阜県	中京高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	岐阜県	中京高等学校	国語	文	国文	
	岐阜県	輪之内町立輪之内中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	静岡県	静岡県立御殿場高等学校	商業	商	商業	
	静岡県	静岡県立浜名高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	静岡県	静岡県立浜松南高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	静岡県	静岡県立富士東高等学校	公民	商	商業	
	静岡県	静岡県立吉原高等学校	英語	文	英語・英米文	
近畿	静岡県	静岡市立高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	静岡県	富士市立須津中学校	社会	経済	経済	
	静岡県	三島市立南中学校	社会	経済	経済	
	静岡県	南伊豆町立南伊豆東中学校	社会	経済	経済	
	静岡県	由比町立由比中学校	社会	文	人文	歴史学
	愛知県	名古屋市立工芸高等学校	英語	文	英語・英米文	
	愛知県	名古屋経済大学高蔵高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	大阪府	能勢町立東中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	和歌山県	新宮市立光洋中学校	社会	商	商業	
	鳥取県	鳥取県立倉吉西高等学校	地理歴史	経済	経済	
中国	岡山県	岡山県立岡山芳泉高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	岡山県	岡山県立倉敷古城池高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	岡山県	矢掛町立矢掛中学校	社会	文学	歴史学	
	広島県	広島県立安芸府中高等学校	英語	文	英語・英米文	
	山口県	山口県立豊浦高等学校	公民	経済	経済	
	山口県	周南市立菊川中学校	社会	商	商業	
四国	香川県	香川県立丸亀城西高等学校	商業	商	商業	
	高知県	土佐塾中・高等学校	国語	文	日本語・日本語学	
	高知県	土佐女子中学校	英語	文	英語・英米文	
	福岡県	福岡県立福岡誠誠高等学校	公民	経済	経済	
九州・沖縄	福岡県	福岡県立戸畑高等学校	英語	文	英語・英米文	
	福岡県	北九州市立菅生中学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	佐賀県	佐賀県立唐津西高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	佐賀県	佐賀県立唐津東高等学校	国語	文	日本語・日本語学	
	佐賀県	佐賀県立三養基高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	長崎県	長崎県立猶興館高等学校		商	商業	
	熊本県	熊本県立東稜高等学校	地理歴史	経済	経済	
	熊本県	熊本県立東稜高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	公民	商	商業	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	英語	文	英語・英米文	
沖縄	熊本県	熊本市立帯山中学校	社会	商	商業	
	熊本県	荒尾市立荒尾第四中学校	社会	文	人文	環境地理学
	大分県	大分県立大分豊府高等学校	英語	文	英語・英米文	
	大分県	大分県立大分舞鶴高等学校	地理歴史	商	商業	
	大分県	大分県立高田高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	鹿児島県	鹿児島県立鹿児島南高等学校	商業	商	商業	
	鹿児島県	出水中央高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	沖縄県	沖縄県立普天間高等学校	地理歴史	商	商業	

平成16年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	群馬県	群馬県伊勢崎市立第二中学校	社会	法	法律
	群馬県	群馬県碓氷郡松井田町立北中学校	社会	法	法律
	埼玉県	埼玉県桶川市立西中学校	公民	法	法律
	埼玉県	埼玉県三郷市立彦成中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県白井市立七次台中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県私立専修大学松戸高等学校	地歴・公民	法	法律
	千葉県	千葉県私立専修大学松戸高等学校	地歴・公民	法	法律
	千葉県	千葉県千倉町立千倉中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県千倉町立千倉中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県千葉市立蘇我中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県銚子市立銚子西高等学校	公民	法	法律
	千葉県	千葉県船橋市立前原中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県松戸市立河原塚中学校	社会	法	法律

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	東京都江戸川区立松江第四中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都多摩市立聖ヶ丘中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都府中市立第四中学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県海老名市立今泉中学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県川崎市立有馬中学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立秦野高等学校	日本史	法	法律
信越	長野県	長野県諏訪清陵高等学校	日本史	法	法律
	長野県	長野県長野市立北部中学校	社会	法	法律
東海	静岡県	静岡県静岡市立城内中学校	社会	法	法律
	静岡県	静岡県私立藤枝明誠高等学校	公民	法	法律
四国	愛媛県	愛媛県立宇和島南高等学校	公民	法	法律
	高知県	高知県私立土佐女子高等学校	公民	法	法律
九州	大分県	大分県宇佐市立西部中学校	社会	法	法律

平成16年度 教育実習先一覧（二部）

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道・東北	北海道	旭川市立春光台中学校	社会	法	法律
	青森県	八戸市立第一中学校	社会	経済	経済
	秋田県	秋田県立秋田北高等学校	地理歴史	経済	経済
関東	群馬県	太田市立城西中学校	社会	経済	経済
	群馬県	群馬県立桐生南高等学校	地理歴史	経済	経済
	埼玉県	所沢市立南陵中学校	社会	法	法律
	埼玉県	鴻巣市立鴻巣北中学校	社会	法	法律
	埼玉県	埼玉県立鴻巣高等学校	商業	商	商業
	埼玉県	埼玉県立飯能高等学校	公民	履修生	
	埼玉県	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	公民	履修生	
	千葉県	印西市立小林中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県国府台高等学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	千葉県立松戸国際高等学校	地理歴史	履修生	
	千葉県	船橋市立船橋高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	千葉敬愛高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	世田谷区立砧南中学校	社会	法	法律

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	江戸川区立小岩第三中学校	社会	法	法律
	東京都	足立区立第十三中学校	社会	法	法律
	東京都	北区立赤羽台中学校	社会	履修生	
	東京都	日野市立日野第四中学校	社会	履修生	
	東京都	東京都立両国高等学校	公民	履修生	
	東京都	麹町学園女子高等学校	公民	法	法律
東	東京都	京華女子高等学校	公民	履修生	
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	公民	履修生	
北陸	神奈川県	神奈川県立川崎高等学校	公民	法	法律
	石川県	田鶴浜町立田鶴浜中学校	社会	履修生	
信越	新潟県	新潟県立新潟北高等学校	商業	商	商業
	京都府	京都市立日吉ヶ丘高等学校	地理歴史	履修生	
近畿	大阪府	大阪商業大学高等学校	公民	商	商業
	和歌山県	串本町立潮岬中学校	社会	履修生	
九州	鹿児島県	れいめい高等学校	商業	履修生	

平成16年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	栃木県	氏家町図書館	文	人文	歴史学
	栃木県	高根沢町図書館	法	法律	
	栃木県	真岡市立図書館	経済	経済	
	埼玉県	本庄市立図書館	文	日本語本文	日本文学文化
	千葉県	君津市立中央図書館	文	日本語本文	日本文学文化
	東京都	荒川区立南千住図書館	文	日本語本文	日本語学
	東京都	国分寺市立図書館	文	人文	歴史学
	東京都	府中市立中央図書館	商	商業	
	東京都	府中市立中央図書館	文	日本語本文	日本文学文化

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	目黒区立八雲中央図書館	文	人文	哲学期間学
	神奈川県	厚木市立中央図書館	文	日本語本文	日本文学文化
	神奈川県	川崎市立麻生図書館	文	人文	社会学
	神奈川県	川崎市立多摩図書館	法	法律	
	神奈川県	藤沢市総合市民図書館	文	日本語本文	日本文学文化
	神奈川県	横浜国立図書館（旭図書館）	文	日本語本文	日本文学文化
	神奈川県	横浜国立図書館（保土ヶ谷図書館）	文	人文	歴史学
	神奈川県	横浜国立図書館（南図書館）	文	人文	哲学期間学
	新潟県	柏崎市立図書館	文	日本語本文	日本文学文化

平成16年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	岩手県	大船渡市立博物館	文	日本語本文	日本文学文化
	秋田県	秋田県立近代美術館	経営	経営	
	秋田県	秋田県立博物館	文	人文	歴史学
	山形県	山形県うきたも風土記の丘考古資料館	文	人文	歴史学
	福島県	福島県立博物館	法	法律	
関東	茨城県	下妻市ふるさと博物館	法	法律	
	茨城県	古河歴史博物館	文	人文	歴史学
	茨城県	水戸芸術館	文	日本語本文	日本文学文化
	茨城県	茨城県近代美術館	文	日本語本文	日本語学
	栃木県	栃木県立博物館	科目等履修生		
	群馬県	緑切寺満徳寺資料館	法	法律	
	群馬県	東毛歴史資料館	文	人文	歴史学
	群馬県	高崎市立歴史民族資料館	文学		日本語本文
	千葉県	市川市動植物園	文	人文	哲学期間学
	千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館	文	人文	歴史学
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	経済	経済	
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	商	商業	
	千葉県	千葉県立房総のむら	文	人文	環境地理学
	千葉県	千葉市美術館	文	人文	哲学期間学
	千葉県	流山市立博物館	文	日本語本文	日本文学文化
	千葉県	野田市郷土博物館	法	法律	
	埼玉県	さいたま川の博物館	文	人文	環境地理学
	東京都	板橋区立熱帯環境植物館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	出光美術館	文	人文	歴史学
	東京都	科学技術館	商	会計	
	東京都	切手の博物館	文	英語英米文	
	東京都	国立音楽大学楽器学資料館	文	人文	環境地理学
	東京都	国立科学博物館	文	人文	歴史学
	東京都	国立科学博物館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	渋谷区立松涛美術館	文	人文	社会学
	東京都	昭和のくらし博物館	経済	経済	
	東京都	すどう美術館	文	日本語本文	日本文学文化
	東京都	すどう美術館	法	法律	
	東京都	調布市郷土博物館	文	国文	
	東京都	東京都井の頭自然文化園	経済	経済	
	東京都	東京都井の頭自然文化園	文	日本語本文	日本文学文化
	東京都	東京都恩賜上野動物園	文	人文	歴史学
	東京都	東京都葛西臨海水族園	文	人文	歴史学

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	東京都薬用植物園	文	日本語本文	日本文学文化
	東京都	日本民藝館	文	人文	社会学
	東京都	日本郵政公社郵政資料館（逓信総合博物館）	法	法律	
	東京都	八王子市郷土資料館	経済	経済	
	東京都	東村山ふるさと博物館	文	人文	歴史学
	東京都	東村山ふるさと歴史館	文	人文	歴史学
	東京都	府中市美術館	文	日本語本文	日本語学
	東京都	物流博物館	文	人文	環境地理学
	東京都	町田市立自由民権資料館	文	英語英米文	
	東京都	町田市立博物館	文	人文	歴史学
	東京都	目黒寄生虫館	文	人文	歴史学
	東京都	横山大観記念館	文	日本語本文	日本語学
	神奈川県	馬の博物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	カスヤの森現代美術館	文	人文	環境地理学
	神奈川県	神奈川県立神奈川近代文学館	文	日本語本文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	文	人文	歴史学
	神奈川県	川崎市青少年科学館	経営	経営	
	神奈川県	川崎市青少年科学館	文	人文	環境地理学
	神奈川県	川崎市青少年科学館	文	人文	環境地理学
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	人文	歴史学
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム（映像）	文	英語英米文	
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム（漫画）	文学		日本語本文
	神奈川県	川崎市立日本民家園	経済	経済	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	人文	哲学期間学
	神奈川県	北鎌倉美術館	経済	経済	
	神奈川県	北鎌倉美術館	文	日本語本文	日本語学
	神奈川県	シルク博物館	商	商業	
	神奈川県	秦野市立桜土手古墳展示館	法	法律	
信越	神奈川県	大和市つる舞の里歴史資料館	文	日本語本文	日本文学文化
	神奈川県	横浜開港資料館	文	人文	歴史学
	神奈川県	横浜こども科学館	文	日本語本文	日本文学文化
	山梨県	山梨県立文学館	文	日本語本文	日本文学文化
	新潟県	上越市立総合博物館	文	日本語本文	日本語学
	長野県	上田市立信濃国分寺資料館	科目等履修生		
	長野県	塩尻市立平出博物館	文	日本語本文	日本文学文化
中国四国九州	広島県	日本はきもの博物館	文	人文	哲学期間学
	香川県	香川県歴史博物館	文	人文	歴史学
	熊本県	玉名市立歴史博物館こころピア	文	人文	歴史学

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 13 年 度	平10 経済・経済	千葉県立市原八幡高等学校	非常勤	公民
	平10 経済・経済	横手市立鳳中学校	専任	社会
	平 6 法・法律	さいたま市立三室小学校	専任	
	平 9 法・法律	国分寺市立第二小学校	専任	
	平10 法・法律	八戸工業大学第二高等学校	非常勤	公民
	平11 法・法律	尼崎市立武庫北小学校	非常勤	
	平11 法・法律	横浜市立原中学校	非常勤	社会
	平12 法・法律	江戸川区立二之江中学校	非常勤	社会
	平13 法・法律	柏高等技術学園	専任	公民
	平12 経営・経営	東京都経営短大村田女子高等学校	専任	商業
	平12 商・商業	群馬県立前橋商業高等学校	非常勤	商業
	平12 商・商業	静岡県立相良高等学校	専任	商業
	平13 商・商業	甲府市立甲府商業高等学校	期限付	商業
	平13 商・商業	静岡県立焼津水産高等学校	常勤	商業
	平12 文・国文	座間市立相模中学校	常勤	国語
	平13 文・国文	水原町立水原中学校	専任	国語
	平13 文・国文	日出女子学園中・高等学校	期限付	国語
	平13 文・国文	目白学園中・高等学校	非常勤	国語
	平 4 文・人文	えびの高原国際高等学校	専任	地理歴史
	平 8 文・人文	新潟県立巻工業高等学校	専任	地理歴史
	平12 文・人文	横浜市立浜中学校	専任	社会
	平12 文・人文	北海道羽幌高等学校	専任	公民
	平13 文・人文	流山市立小山小学校	期限付	生活科
	平13 文・人文	不二女子高等学校	期限付	地歴・公民
	平11 院文・修士	狭山ヶ丘高等学校	専任	国語
	平12 院文・修士	熊本中央女子高等学校	非常勤	国語
	平13 院文・修士	東海大学付属高輪台高等学校	非常勤	英語
	平13 院文・修士	新田町立生品小学校	非常勤	社会
平成 14 年 度	平14 経済・経済	川北町立川北小学校	非常勤	
	平14 経済・経済	神奈川県立高津養護学校	非常勤	
	平14 法・法律	一宮町立一宮中学校	常勤	社会
	平12 商・商業	東京実業高等学校	非常勤	商業
	平14 商・商業	山梨県立高等学校	期間採用	商業
	平14 文・国文	田原町立田原中学校	常勤	国語
	平 9 文・英米文	東海大学菅生高等学校	専任	英語
	平10 文・英米文	品川区立三木小学校	専任	
	平10 文・英米文	東京都内養護学校	専任	英語
	平11 文・英米文	柏木学園高等学校	専任	英語
	平11 文・英米文	八王子市立四谷中学校	専任	英語
	平11 文・英米文	福島高等学校	専任	英語
	平12 文・英米文	宮城県迫桜高等学校	専任	英語
	平12 文・英米文	青梅市立第二小学校	専任	
	平13 文・英米文	騎西町立騎西中学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	正則学園高等学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	松任市立松任中学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	大田区立馬込中学校	専任	英語
	平14 文・英米文	福島県立喜多方商業高等学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	報徳学園高等学校	非常勤	英語
	平14 院文・修士	川崎市立西中原中学校	非常勤	
	平14 院文・修士	岩手県立盛岡商業高等学校	専任	地歴・公民
	平14 院文・修士	杉並学院高等学校	非常勤	英語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成15年度	平15 経済・経済	秦野市立堀川小学校	指導助手	
	平15 経済・経済	新利根町立太田小学校	期 限 付	
	平15 経済・経済	福岡第一高等学校	常 勤	地理歴史
	平15 経済・経済	館山市立船形小学校	非 常 勤	国語・社会・図工
	平15 法・法律	野木町立野木第二中学校	常 勤	社 会
	平15 法・法律	川口町立川口中学校	非 常 勤	数 学
	平15 法・法律	湯之谷村立湯之谷中学校	非 常 勤	数 学
	平15 経営・経営	静岡県立田方農業高等学校	非 常 勤	商 業
	平13 商・商業	船橋市立船橋高等学校	非 常 勤	商 業
	平15 商・商業	群馬県立前橋商業高等学校	非 常 勤	商 業
	平15 商・商業	専修大学北上高等学校	常 勤	商 業
	平15 商・商業	東京都立荒川商業高等学校（定時制）	非 常 勤	商 業
	平12 文・国文	群馬県内公立小学校		
	平12 文・国文	福島県立福島南高等学校	常 勤	国 語
	平15 文・国文	倉敷市立児島中学校	非 常 勤	国 語
	平15 文・国文	鶴岡東高等学校	常 勤	国 語
	平 4 文・英米文	大田区立田園調布中学校	専 任	英 語
	平11 文・英米文	作新学院高等学校	専 任	英 語
	平13 文・英米文	新鶴村立新鶴中学校	非 常 勤	英 語
	平13 文・英米文	川崎市立御幸中学校	常 勤	英 語
	平13 文・英米文	三郷市立彦成中学校	専 任	英 語
	平15 文・英米文	新潟県立佐渡高等学校	期 限 付	英 語
	平15 文・英米文	正則学園高等学校	非 常 勤	英 語
	平15 院経営・修士	埼玉県立所沢西高等学校	専 任	情 報
	平14 院文・修士	獨協埼玉中・高等学校	専 任	地理歴史
	平15 院文・修士	神奈川県立生田東高等学校	非 常 勤	情報・総合学習
	平15 院文・修士	朋優高等学校	専 任	英 語
平成16年度	平16 経済・経済	郡山市立小原田中学校	非 常 勤	社 会
	平16 経営・経営	学校法人立教学院（立教新座中学校・高等学校）	非 常 勤	情 報
	平16 商・商業	学校法人川島学園（鹿児島実業高等学校）	期 限 付	商 業
	平16 商・会計	学校法人明昭学園（岩倉高等学校）	非 常 勤	商 業
	平16 商・会計	学校法人佐藤栄学園	専 任	商 業
	平16 文・英米文	石毛町立石毛西中学校	非 常 勤	英 語
	平16 文・英米文	株式会社社会教育事業団（武蔵国際総合学園）	期 限 付	英 語
	平16 文・英米文	黒磯市教育委員会	常 勤	英 語
	平16 文・人文	学校法人福田学院（東和大学附属昌平高等学校）	非 常 勤	地理歴史
	平16 文・人文	北区内小学校	非 常 勤	
	平16 院経営・修士	宮崎県立富島高等学校	専 任	商 業
	平16 院経営・修士	学校法人沼津精華学園（沼津中央高等学校）	専 任	商業・情報
	平16 院文・修士	新潟県立新潟西高等学校	専 任	英 語
	平16 院文・修士	学校法人拓殖大学（拓殖大学第一高等学校）	非 常 勤	地理歴史
	平15 法・法律	学校法人湘南白百合学園（湘南白百合学園中学高等学校）	非 常 勤	情 報
	平12 文・人文	松戸市立六実第二小学校	専 任	全 科
	平15 法・法律	松戸市立牧野原小学校	専 任	全 科
	平15 文・英米文	あきる野市内小学校	専 任	全 科
	平 9 商・商業	学校法人開成学園（大宮開成高等学校）	非 常 勤	商 業
	平15 文・英米文	川崎市立平間中学校	非 常 勤	英 語

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

卒業年度・学部・学科	勤務先
平14 経・経済	千葉明德短期大学図書館
平 8 法・法律	瀬高町立図書館準備室（福岡県）
平 9 法・法律	日外アソシエーツ（株）
平11 商・商業	有隣堂
平 6 文・国文	下妻市立図書館準備室（茨城県）
平 8 文・国文	杉並区立中央図書館（東京都）
平 8 文・国文	桂村立図書館（茨城県）
平 9 文・国文	八街市立図書館（千葉県）
平10 文・国文	鷺湖書房
平10 文・国文	長岡市立中央図書館（新潟県）
平12 文・国文	青山学院女子短期大学図書館
平13 文・国文	実践女子大学図書館
平13 文・国文	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
昭和46 文・人文	東京福祉商経専門学校図書室
昭和57 文・人文	市川市東国分中学校
平 8 文・人文	東京大学法学部図書館
平 9 文・人文	見附市立図書館（新潟県）
平 9 文・人文	女子栄養大学図書館
平 9 文・人文	東京医科大学図書館
平11 文・人文	葛飾区立四ツ木地区図書館（東京都）
平12 文・人文	専修大学図書館
平14 文・国文	専修大学図書館
平12 文・人文	藤沢市立中央図書館（神奈川県）
平14 商・商業	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
平14 法・法律	（株）雄松堂書店
平15 文学・歴史学	国士舘大学鶴川図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県一迫町役場	山武郡埋蔵文化財センター
秋田県埋蔵文化財センター	国立西洋美術館
下妻市ふるさと博物館	調布市郷土博物館
玉造町資料館	東京国際美術館
栃木県埋蔵文化財センター	東京都埋蔵文化財センター
栃木県立博物館	明治大学考古学博物館
群馬県埋蔵文化財センター	福井県立博物館
富岡市立美術博物館福沢一郎記念美術館	高山市歴史民俗資料館
入間市郷土博物館	MOA美術館
鳥羽水族館	行田市郷土博物館
高松市歴史資料館	埼玉県埋蔵文化財センター
浦和市くらしの博物館民家園	逓信総合博物館
矢島町立郷土資料館	野田市郷土博物館
乃村工芸社	町田市フォトサロン
（東京）電力館	

平成16年度 資格課程年間行事表

データ編

課程		教 職 課 程		司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4 月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）							
	中 旬	履 修 届 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
		介護等体験オリエンテーション 実習希望校との内諾交渉	3・4 3						
5 月	上 旬	教育実習事前ガイダンス	4					博物館実習事前ガイダンス	3・4
	下 旬	介護等体験事前講習会	3・4						
6 月	上 旬	教育実習開始 （5月下旬～9月中旬）	4					博物館見学実習	3・4
	中 旬	教育実習登録ガイダンス 教育実習内諾書の提出 教員免許状一括申請ガイダンス	3 3 4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （3年次までに司書 教諭の単位をすべて取得した者対象）	4		
	下 旬	介護等の体験開始 （6月下旬～2月初旬）	3・4						
7 月	下 旬	前 期 試 験（全 学 年）							
		夏 期 休 暇（7月下旬～9月上旬）							
8 月	上 旬	前 期 追 試 験（全 学 年）							
		専修大学英語科教育研究会	1～4	図書館実習	4			博物館実習（館務実習）	3・4
		夏 期 休 暇							
9 月	中 旬	教員免許状授与願ガイダンス	4						
10月		教職公開講座	1～4					博物館実習登録ガイダンス（第1回）	2・3
11月	上 旬					司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次に司書教諭の単位を履修している者対象）	4		
	下 旬	教育学会	1～4					博物館実習登録ガイダンス（第2回）	2・3
12月	中 旬							実習希望博物館との内諾交渉	2・3
				司書課程就職（進路）相談会	1～4			学芸員資格取得証明書申請手続き	4
1 月	上 旬 下 旬	後 期 試 験・学 年 末 試 験（全 学 年）							
2 月	下 旬	後 期・学 年 末 追 試 験（全 学 年）							
3 月	上 旬	教職特別講座	1～4					博物館実習承諾書の提出	2・3
	中 旬	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

Pana & Pana

平成16年度 教職公開講座開催結果

- 開催日 平成16年10月2日（土）
- 時 間 13：30～17：00 （17：30～19：00 反省・情報交換会）
- 場 所 生田校舎 8号館 （ル・クラブ・ドウ専修（グリーントップ3階） 反省・情報交換会）
- 参加者数 88名
- 内 容

〔全体講師〕

（教職員の望ましいあり方および現在の教育課題について）

講 師	岩 田 公 夫 先生（本学文学部卒業） （元横浜市中村小学校校長、現横浜国立大学大岡山地区センター館長）
-----	---

〔教科講師〕

講 師 （卒業年・学部・学科）	勤 務 先	科 目
渡邊 克也 先生 （昭和62年3月文学部国文学科卒業）	茨城県立土浦第三高等学校	国 語
水澤 一洋 先生 （平成14年3月文学部英米文学科卒業）	新潟県立新潟西高等学校	英 語
岩本 知之 先生 （平成11年3月商学部商業学科卒業）	静岡県掛川市立原野谷中学校	社 会
佐々木 究 先生 （平成14年3月法学部法律学科卒業）	東京都立八王子東養護学校	地歴・公民
津久井 孝明 先生 （平成14年3月経済学部経済学科卒業）	群馬県立館林商工高等学校	商 業
駒形 潤治 先生 （平成14年3月経営学部経営学科卒業）	静岡県私立沼津中央高等学校	情 報
西之宮 徹 先生 （平成11年3月経済学部経済学科卒業）	神奈川県横浜市立緑小学校	小 学 校

〈タイムテーブル〉

時 間	内 容	場 所
13：30～13：40	挨拶 委員長 経済学部 教授 矢 吹 芳 洋	822教室
13：50～14：20	現職教員からの提言① 英語 商業 社会 国語	821教室 822教室 823教室 824教室
14：30～15：00	現職教員からの提言② 情報 地歴・公民 小学校	821教室 823教室 824教室
15：10～15：50	現職教員とのディスカッション 商業・情報 社会・地歴・公民 英語・国語・小学校	821教室 823教室 824教室
15：50～16：00	休 憩10分（822教室に移動）	
16：00～17：00	採用者側からの助言 （講師紹介：商学部 教授 蔭山 雅博）	822教室
17：30～19：00	終了後、反省・情報交換会	ル・クラブ・ドウ専修 （グリーントップ3階）

平成16年度 教職特別講座開催結果

- 開催日 平成17年3月17日（木）・18日（金）・23日（水）・24日（木）・25日（金）
- 時間 ①13：00～14：40 ②14：50～16：30 1コマ100分 2コマ
- 場所 生田校舎 4号館 2階 423教室（424教室）
- 参加者数 延べ58名
- 内 容

開催日	内 容	講 師	参加者数
3月17日（木）	一般教養（理科①②）	ネットワーク情報学部助教授 香山 瑞恵	9名
3月18日（金）	一般教養（数学①②）	専修大学附属高等学校教諭 長谷川 素道	8名
3月23日（水）	①小論文対策 ②面接・場面指導対策	横浜市中村地区センター館長 岩田 公夫（元横浜市中村小学校校長） 神奈川県立三崎水産高等学校 総括教頭 新井 由紀男 経済学部教授 矢吹 芳洋	19名
3月24日（木）	教育法規・教育時事	経営学部教授 嶺井 正也	19名
3月25日（金）	数学科教育法研究1・2	ネットワーク情報学部兼任講師 小原 豊	3名

平成16年度 第13回専修大学英語科教育研究会開催結果

- 開催日 平成16年8月21日（土）
- 時間 12：20～16：00（受付12：00～）
- 場所 生田校舎 9号館
- 参加者数 32名
- 内 容

時 間	内 容
12：00～	受付
12：20	開会 司会：文学部 教授 上村 妙子
12：20～13：30	「個に応じた英語授業過程の改善：大学の現場から」 文学部 教授 田邊 祐司
13：30～14：30	「インタラクションを通じた授業改善」 鹿嶋市立平井中学校 教諭 長尾 剛
	コーヒー・ブレイク
14：45～15：45	談話会「英語の授業：悩み交換」 進行：大田区立東中学校教諭 溪内 明 アドバイザー：元文学部 教授 伊部 哲 文学部 教授 上村 妙子
15：45～16：00	総会・終了

平成16年度 司書課程就職（進路）相談会開催結果

- 開催日 平成17年1月14日（金）
- 時間 16：20～18：00
- 場所 生田校舎 4号館 2階 422教室
- ゲスト 阿久津裕美（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）
- 参加者数 10名
- 内 容 大学院進学および図書館関連の就職などについて、ゲストを交えての懇談。

平成16年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	矢吹 芳洋	公民科教育論
経済学部	助 教 授	青木みのり	発達・学習心理学
法 学 部	教 授	広瀬 裕子	教育行政学
法 学 部	教 授	渡部 光	比較教育学
法 学 部	講 師	鈴木 秀光	法律学
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育行政学
経営学部	助 教 授	中村 太一	英語科教育論Ⅱ
商 学 部	教 授	蔭山 雅博	地理歴史科教育論
商 学 部	教 授	中野 育男	商業科教育論
商 学 部	助 教 授	小峰 直史	特別活動論
文 学 部	教 授	新井 勝紘	日本史
文 学 部	教 授	上原 秀明	地理学
文 学 部	教 授	江崎 雄治	地誌学
文 学 部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教 授	上村 妙子	英語科教育論Ⅰ
文 学 部	教 授	田邊 祐司	教育実習Ⅰ（英語）
文 学 部	教 授	仲川 恭司	書道科教育論
文 学 部	助 教 授	高橋 龍夫	国語科教育論Ⅰ
ネットワーク 情報学部	教 授	青木 憲二	数学科教育論Ⅰ
ネットワーク 情報学部	教 授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク 情報学部	助 教 授	香山 瑞恵	情報科教育論
経済学部	兼任講師	大熊 光穂	心理学
経済学部	兼任講師	佐藤 由美	社会科教育論Ⅰ
経済学部	兼任講師	斉藤 利彦	社会科教育論Ⅰ
経済学部	兼任講師	菅澤 康雄	特別活動論
法 学 部	兼任講師	柏木 敦	道德教育論
法 学 部	兼任講師	関根 照彦	法律学
法 学 部	兼任講師	樋口 州男	日本史
法 学 部	兼任講師	広井多鶴子	教育原論
法 学 部	兼任講師	油井原 均	教育課程論
経営学部	兼任講師	田口 康明	比較教育学
経営学部	兼任講師	東 宏行	教育職員論
商 学 部	兼任講師	飯森 富夫	日本史
商 学 部	兼任講師	井出 功孝	特別活動論
商 学 部	兼任講師	神山 安弘	地理歴史科教育論
商 学 部	兼任講師	小瑤 史朗	社会科教育論Ⅱ
商 学 部	兼任講師	谷 秀雄	倫理学
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	地理学
商 学 部	兼任講師	毛利 豊史	倫理学
文 学 部	兼任講師	荒川 葉	教育原論
文 学 部	兼任講師	大熊 徹	国語科教育論Ⅰ
文 学 部	兼任講師	岡 秀一	地誌学
文 学 部	兼任講師	長阪 朱美	英語科教育論Ⅰ
文 学 部	兼任講師	小林 基男	外国史

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文 学 部	兼任講師	澤邊 和浩	外国史
文 学 部	兼任講師	角田 清美	地誌学
文 学 部	兼任講師	西田 暢子	外国史
文 学 部	兼任講師	富士原紀江	教育方法論
文 学 部	兼任講師	山添 謙	地理学
ネットワーク 情報学部	兼任講師	小原 豊	教育方法論

《司書・司書教諭》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	助 教 授	荻原 幸子	図書館概論
経済学部	兼任講師	中島 宏	マスコミュニケーション
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報検索
法 学 部	兼任講師	田中 功	情報検索
法 学 部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	竹内 紀吉	図書館サービス論
経営学部	兼任講師	丸山 光枝	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	小黒 浩司	図書及び図書館史
文 学 部	兼任講師	歌田 明弘	マスコミュニケーション
文 学 部	兼任講師	汐崎 順子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	須賀 千恵	図書館経営論
文 学 部	兼任講師	千葉 治	コミュニケーション論
文 学 部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス概説
文 学 部	兼任講師	長谷川幸男	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	森園 繁	図書館資料論

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	内田 欽三	博物館学
文 学 部	教 授	亀井 明德	博物館実習

編集後記

専修大学資格課程年報「パッソ・ア・パッソ 第7号」をお届けします。

基本的な編集方針は従来通りですが、本年度は新たに、資格課程の四年間をわかりやすく紹介する案内図を、目次の次に掲載いたしました。より多くの方々にこの年報を読んでもらいたいという編集委員会の期待を込めた試みです。

商学部の中野育男先生には全国私立大学教職課程協議会の議論の様子を、また、同じく商学部の小峰直史先生には在外研究でご経験されたプロジェクトの様子をご紹介いただき、資格課程の今後を考える良い刺激を与えていただきました。さらに、文学部の片桐一彦先生、兼任講師の千葉治先生、同じく兼任講師の御園生純先生にご執筆をお願いいたしました。みなさまお忙しい中、原稿の依頼をお引き受け下さり、ありがとうございました。また、例年通り各課程の卒業生の方々、および各課程の実習を終えた学生諸君からも貴重な体験談をお寄せいただきました。みなさまのご寄稿に感謝いたします。

最後になりましたが、編集作業に携わっていただきました教務課の皆様にもこの場を借りて、改めてお礼申し上げます。

2005年11月1日

資格課程年報編集委員会

編集委員長 砂 原 由 和
編 集 委 員 亀 井 明 徳
仲 川 恭 司
荻 原 幸 子

平成16年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成17年11月30日

編 集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-1244

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

U R L <http://www.senshu-u.ac.jp/School/shikaku/>

印 刷 株式会社 芳文社

〒194-0035 東京都町田市忠生1-18-18

TEL 042-792-3100

